

序章 問題意識と調査の概要

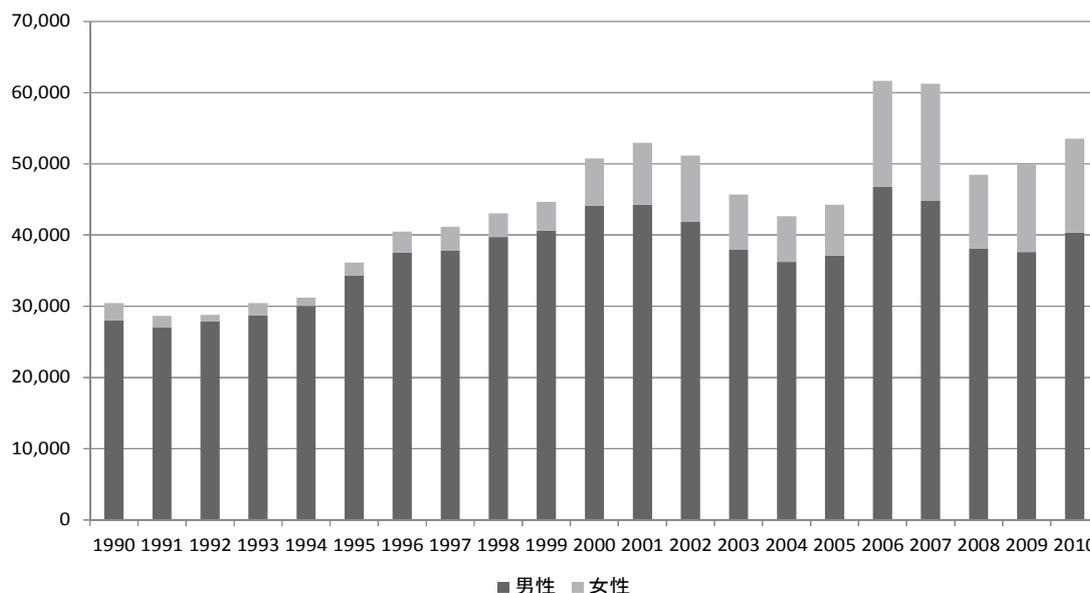
第1節 先行研究の状況と問題意識

本研究の目的は、年間8万人を超えているにもかかわらず十分に把握されていない日本の大学等中退者について、既存統計の二次分析とハローワーク・地域若者サポートステーションで実施した調査に基づき、その実態の一端を明らかにすることである。

90年代半ばより、日本の大学等（大学・短大・専門学校・高専の専門課程）への進学率は上昇している。量的に見ても、大学への入学者は1990年には50万人に届いていなかったが、2010年にはほぼ62万人に達した。18歳人口が減少する中で大学が増え進学率が上昇した背後には、高校教育政策の転換と高卒労働市場の狭隘化が存在している。80年代までの日本社会においては、高卒者の卒業後の進路の4割は就職であったが、90年代半ば以降は大学・専門学校等をはじめとした高等教育への進学が主流となり、多様な学生が大学等に進学するようになったのである。Trow（1976）は、大学進学率の変化は大学に質的な変化を及ぼすと述べるが、これまで日本では学力面の多様化が大学に及ぼす影響が早くから認識され、初年時教育やリメディアル教育の充実が進んできている。

他方であまり着目されてこなかったのが大学等の中退者である。これまでの大学等中退者の実態についての先行研究の特徴は、大学等に対する調査が中心であり、当事者である大学等中退者を対象とした調査がほとんど存在しない点にあるが、まずは大学を通じた調査から検討しよう。

図表序－1 大学中退者数の推移（推計）



資料出所：『学校基本調査』より、入学年度の入学者数から4年後の卒業年度の卒業生数を減じた数の推移。なお、2006－2007年に急増しているように見えるのは薬学部が6年制になったことも影響していると推察される。

大学等への進学率が上昇し多様な学生が進学する中で、大学等中退者も一定数を占めるようになってきている。図表序－1は、『学校基本調査』から入学年度の入学者数から4年後の卒業年度の卒業生数を減じた数を示した図表である。入学者と卒業生に4年を超える課程の学生が含まれており、かつ留年者も存在するため、この数がすべて中退者というわけではない。だが90年代前半まで3万人程度だった大学中退者と見なせる数値は2000年には5万人を超え、その後増減を繰り返してはいるものの、少ない年でも4万人を超えるようになってきている。

より詳しく修業年限を4年に限った『学校基本調査』からの推計によれば、2003年度入学の四年制大学の中退率は、「4年以内中退率」が男子全体で10.8%、女子は6.1%、「8年以内中退率」が男子全体で13.7%、女子で6.9%にのぼる（朴澤2012）¹。

図表序－2 四年制大学の中退率（2003年度入学者）

	男子				女子			
	全体	国立	公立	私立	全体	国立	公立	私立
4年以内中退率	10.8	4.1	6.5	12.4	6.1	2.0	3.8	7.0
8年以内中退率	13.7	7.5	8.9	15.2	6.9	2.7	4.7	7.8

資料出所：朴澤（2012,p.65）より引用

大学等中退者についてもっとも包括的な文科省調査（対象：大学・短大・高専1163校 回収率97.6% 2014年2-3月実施）によれば、中退者数が6万3千人（07年度）から7万9千人（12年度）に増加していること、また大学が回答する中退理由として、「経済的理由」が07年度より増加していること（6.4%増）が指摘されている（詳しい図表は第2章の参考図表を参照）。

心理学的な観点からの研究として、1979年より実施されている「大学における休・退学、留年学生に関する調査」が存在する（内田2013等）。すべての大学ではないものの、休学・退学する事由を大学に尋ねており、①身体疾患群、②精神障害群、③消極的理由群（大学教育路線から離れるような理由 勉学意欲の不足や就職等）、④積極的理由群（大学教育路線上にあり、更に積極的な理由 例えば海外留学や資格取得準備等）、⑤環境要因群、⑥不詳、に分類している。2010年調査においては、消極的理由が49.78%と半数を占め、続いて積極的理由が19.15%となっている。

東京大学政策ビジョン研究センターが実施した「専修学校における生徒・学生支援等に対する基礎調査」（2014）によれば、専門学校の各年度の中退率は2010年6.8%、2011年7.2%、2012年6.7%となっている。また中退理由は第2章に詳しく示しているが、学業不振、進路変更（その他）と進路変更（就職）が上位に位置している。

それではどんな大学等において中退者が多いのだろうか。最も社会的関心が高くかつデー

¹ 「4年以内中退率」＝（入学者数－4年後卒業生数－最低在学年限1年超過学生数）÷入学者数×100、「8年以内中退率」＝（入学者数－累積卒業生数）÷入学者数×100、で算出されている。

タが整っているため、先行研究のほとんどは大学に関するものである。読売新聞社『大学の實力』の掲載データを用いた清水（2013）による社会科学系学部（約400学部）についての分析に拠れば、おおむね偏差値によって退学率が変化することが観察された。退学率の回帰分析を、偏差値、一般入試比率（センター含む）、充足率（在籍者数÷大学全体の定員）、国公立ダミーを変数として行ったところ、偏差値と一般入試比率の影響が大きいことが見出された。

図表序－3 偏差値別退学率

偏差値	私立	国公立	合計
39	17.2		17.2
40-44	16.9		16.9
45-49	11.6	6.7	11.5
50-54	8.0	3.8	6.8
55-59	6.0	3.6	5.0
60-64	3.4	1.6	2.9
65-69	3.2	2.4	3.0
70以上	3.0	1.5	2.2
平均	11.0	2.9	9.4

資料出所：清水（2013）より引用 偏差値はベネッセによる。
退学率は2008年度入学から卒業（2012年）までの期間

また同じ読売新聞社「大学の實力調査」、および朝日新聞社『日本の大学ランキング』からパネルデータを作成し、大学の学習環境と退学率を探った姉川（2014）がある。大学での学習支援、生活支援（大学独自の奨学金の給付・貸与、学費減免を受けている学生数／全学生数）が中退を抑制するかどうかについて検討したところ、入学前学力＋大学での学習支援（図書貸出数、教員学生比率）が中退の抑制に効果があることが観察されている。

以上の知見はいずれも大学に対する調査から偏差値と退学率に相関があることを示しているが、大学中退者に対する調査研究によれば、偏差値は重要な変数ではあるものの、他にも考慮すべき変数があることを限られたいくつかの研究は示唆している。

新設私大（社会科学系学部）の2003～2005年度入学生332人に対する調査（鍛冶2010）においては、社会関係資本（保護者の性別、自宅かどうか、サークル加入、19歳以上で入学）が退学や卒業に影響を及ぼすのではないかという検討がなされている。1大学の事例調査であるが、サークル活動に参加し、初年次に単位を多くとることが、退学・留年防止に効果があるとの知見が得られている。

また実際の中退ではないが入学時の退学・転部意向を探った調査がある（山下2014）。ベネッセ『大学生基礎力調査』（2013年1～3年のパネルデータ約2万人）を用いて、合格偏差値帯、学部系統、入試方法について着目している。同じ合格偏差値帯でも、学部系統によって入学時の退学意向は異なっているが、もっとも合格偏差値帯の影響を受けやすいのが社会科学系の学部であり、合格偏差値帯によって退学意向が変動する。また大学や学部の志望

度の影響も大きく、大学も学部も第一希望だった場合には、合格偏差値 60 以上でも合格偏差値 50-60 でも退学意向はほとんど変わらない。しかし偏差値が高くとも第二希望の大学だと退学意向がやや高くなる。さらに推薦や AO 入試による入学者では合格偏差値帯に関わらず退学意向が低い。一般入試やセンター入試による入学者は偏差値の影響を受けやすく、特にセンター入試では退学意向がいずれの偏差値帯でも最も高くなる。実際の中退データではないものの、偏差値だけでなく、学部や入試方法、あるいは第一希望かどうかという主観的な側面が中退意向に影響を及ぼす可能性が示されている。

さらに大学中退者の事例は 7 人と少ないものの、河野（1997）は大学中退者に関するインタビューデータを収集し、中退の背後には、家庭の経済的背景、職業モデル、大学外で得られる充足感、大学の知的満足感の欠如に加えて、成績を重視する選抜制度や高校の進路指導があることを見出している。

また社会移動・社会階層研究から、どんな学生が中退しやすいかを探った研究がある。村澤（2008）は、大学入学以前の学力、出身高校の学科（専門学科であることは中退確率を高める）、相談相手の存在、出身階層が大学中退に影響を与えており、また中退者には管理・専門職層への障壁がある可能性を示唆している。三輪・下瀬川（2014）においても、高等教育中退に対して出身階層の影響があることが述べられている。

以上から、どんな学生が中退しやすいかという観点からは、大学ランク（偏差値）に規定されつつも、入学者選抜や高校の進路指導や進路選択、大学生活、家庭背景についても考慮する必要があることを先行研究は教えている。

ところで学校から職業への移行が諸外国に比べると悪化したとは言っても、国際比較においては移行がスムーズな日本の文脈から言えば増加する中退者は問題化されうるが、日本の大学中退率は、OECD 諸国の中でもっとも低い部類に入る。濱名（2013）はアメリカの大学との比較から、アメリカでも入学難易度が高い大学であると中退率は低い傾向にあるが、大学中退防止の有効な策として、「第一世代」（家族に高等教育を受けた人のいない学生）問題への対応と、専攻の選択の遅延化が重要だと考えられているという。他方で日本では高大接続において、高校卒業時の質保証の欠如、学位の多様化、生活面から学力面まで準備不足の学生の増加、入学者選抜が正解主義で大学が求める学習能力を測れるようになっていない、などの課題が内包されている。大学の対応方法としては、編入学の自由化、高校教育の質保証の充実、個別大学の IR（Institutional Research）による教育活動の改善、が中心になるが、大学教育の質を担保しながら中退増加を同時に解決できるかどうかは疑問であり、様々な困難が予想されることが述べられている。

以上の先行研究は中退までを追跡したものであるが、中退後の行動についてはこれまで教育研究でも労働研究でも十分に検討の対象になってこなかった。労働研究においては、様々な労働統計において学歴を尋ねる際に中退という選択肢は設けられていないことが多く、中退については十分に把握されていない。中退の場合、学歴上は下の段階の学歴になってしまう

うため、大学等の中退者であれば学歴は高卒ということになるからである。

数少ない例外が労働政策研究・研修機構が実施している「若者のワークスタイル調査」である。図表序-4は、2011年に東京都の若者に対して実施された「第3回 若者のワークスタイル調査」に基づき、離学時の正社員比率を示している。新規学卒者は離学時の景気の影響を受けやすいので、景気の状態によって時期を分類して示している。

サンプルサイズが小さいため高等教育中退者は一つのカテゴリーとしているが、学校を離れた時（中退者の場合は中退時）の正社員比率は卒業者に比べてとても低く、高卒者よりも低くなっている。

図表序-4 離学時期別・離学時の正社員比率（学歴別）

	離学時期								合計	
	2004年以前		2005～2009年		2010年以降		無回答・不明			
	正社員比率	N	正社員比率	N	正社員比率	N	正社員比率	N	正社員比率	N
男性 高卒	45.0%	100	52.0%	98	-	3	27.8%	18	46.6%	219
専門・短大・高専卒	60.9%	69	68.3%	126	64.0%	25	76.9%	13	66.1%	233
大学・大学院卒	79.4%	34	80.2%	303	68.8%	77	80.0%	15	78.1%	429
中卒・高校中退	7.7%	39	16.7%	12	-	0	-	5	10.7%	56
高等教育中退	5.9%	17	11.9%	42	9.1%	11	-	4	9.5%	74
その他不明	-	1	-	4	-	1	23.1%	13	31.6%	19
男性計	45.4%	260	66.5%	585	61.5%	117	45.6%	68	59.2%	1,030
女性 高卒	49.2%	65	39.8%	83	-	0	35.7%	14	43.2%	162
専門・短大・高専卒	59.8%	92	60.5%	195	54.2%	48	45.5%	22	58.5%	357
大学・大学院卒	64.5%	31	79.8%	277	64.8%	91	55.6%	18	74.3%	417
中卒・高校中退	0.0%	15	6.7%	15	-	0	-	4	2.9%	34
高等教育中退	0.0%	13	9.1%	22	-	8	-	3	4.3%	46
その他不明	-	1	-	3	-	0	-	8	41.7%	12
女性計	49.3%	217	63.5%	595	57.8%	147	39.1%	69	58.1%	1,028

注：10人以下のセルは正社員比率を計算していない。

調査対象が20-29歳であることから、大卒の2004年以前卒業者は少なく、高卒の2010年以降卒業者はほとんどいない。

資料出所：労働政策研究・研修機構（2012,p.21）

さらに労働市場に出て経験を重ねても、正社員への移行は困難である。図表序-5は、同じ「ワークスタイル調査」から、学歴別の現職業キャリアを類型化したものである。高等教育中退者は、中卒・高校中退と並んで「現在無業」や「非典型一貫」の割合が高くなっている。

これらは正社員経験という観点から大学等中退者のキャリアを検討したものだが、大学等の卒業者はもちろん、高卒者よりも困難な状況に置かれていることは明らかである。

図表序－５ 学歴別現職業キャリアの分布

単位：％

	正社員 定着	正社員 転職	正社員 から非 典型	正社員 一時他 形態	非典型 一貫	他形態 から正 社員	自営・ 家業	現在無 業	その 他・不 明	合計	
高卒	26.5	5.5	6.8	4.1	22.4	23.3	5.5	4.6	1.4	100.0	219
専門・短大・高専卒	35.6	13.3	9.0	3.4	13.3	15.0	4.7	4.7	0.9	100.0	233
男 大学・大学院卒	<u>60.6</u>	7.0	5.6	2.6	8.6	7.7	3.0	4.2	0.7	100.0	429
性 中卒・高校中退	<i>5.4</i>	3.6	1.8	0.0	<i>21.4</i>	33.9	16.1	<u>16.1</u>	1.8	100.0	56
高等教育中退	1.4	1.4	2.7	1.4	<i>36.5</i>	33.8	6.8	12.2	4.1	100.0	74
男性計	<u>39.8</u>	7.5	6.1	2.8	<i>15.7</i>	15.8	4.9	5.5	1.8	100.0	1,030
高卒	14.2	2.5	19.1	4.3	40.1	6.2	4.3	8.0	1.2	100.0	162
専門・短大・高専卒	34.5	6.7	11.5	3.9	26.9	10.1	2.5	3.4	0.6	100.0	357
女 大学・大学院卒	<u>58.8</u>	6.2	5.8	1.7	<i>14.9</i>	6.5	2.2	3.6	0.5	100.0	417
性 中卒・高校中退	2.9	0.0	0.0	0.0	<i>76.5</i>	11.8	2.9	5.9	0.0	100.0	34
高等教育中退	2.2	0.0	2.2	0.0	<i>65.2</i>	8.7	4.3	17.4	0.0	100.0	46
女性計	<u>38.6</u>	5.3	9.5	2.7	<i>27.4</i>	8.0	2.7	5.0	0.8	100.0	1,028
高卒	21.3	4.2	12.1	4.2	29.9	16.0	5.0	6.0	1.3	100.0	381
専門・短大・高専卒	34.9	9.3	10.5	3.7	21.5	12.0	3.4	3.9	0.7	100.0	590
男女 大学・大学院卒	<u>59.7</u>	6.6	5.7	2.1	11.7	7.1	2.6	3.9	0.6	100.0	846
計 中卒・高校中退	4.4	2.2	1.1	0.0	42.2	25.6	11.1	12.2	1.1	100.0	90
高等教育中退	1.7	0.8	2.5	0.8	47.5	24.2	5.8	14.2	2.5	100.0	120
男女計	<u>39.2</u>	6.4	7.8	2.8	<i>21.6</i>	11.9	3.8	5.2	1.3	100.0	2,058

注：計には学歴不明を含む。下線は、2006年調査結果と比べて、7%ポイント以上の増加、斜体は7%以上の減少を示す。

資料出所：労働政策研究・研修機構（2012,p.28）

大学等中退問題については、濱名（2013）が主張するような教育政策での対応も重要である。しかし無視できない量の中退者が不安定な状態で労働市場に参入し、かつその不安定な状態が引き続くとすれば、労働政策における支援も不可欠ということになる。そこで労働政策研究・研修機構では、厚生労働省職業安定局若年者雇用対策室の課題研究を受け止め、大学等中退者に関する研究を行うこととした。

第2節 調査研究の概要

研究を効率的に進めるために本研究では3つのアプローチを採用した。

第一に、既存調査の二次分析であり、2つのデータを用いた。

一つ目は、上述したように、労働調査では「中退」という調査項目が設けられることは少なく利用できるデータはきわめて限られるが、厚生労働省「21世紀成年者縦断調査」には「中退」の項目があったため、個票データを用いた二次分析を実施した。調査の詳細については第1章を参照して頂きたいが、厚生労働省が「国民生活基礎調査」の調査地区から無作為抽出した地区の20-34歳の男女（及びその配偶者）に対して実施したパネル調査であり、「14年調査」「24年調査」の2つのパネルから成っている。「14年調査」は男女33,689人（第1回調査時点）、「24年調査」は男女39,892人（第1回調査時点）が対象となっている。

二つ目として、厚生労働省職業能力開発局キャリア形成支援室からの緊急調査として実施した地域若者サポートステーション（以下、サポステと呼ぶ）の支援者に対する調査について、中退者に着目した二次分析を実施した。調査は、若者自立支援中央センターが2014年2

月～3月に実施したものである。当機構は調査票の作成および分析を担当している。調査対象は、全国の全てのサポステにおいて、登録時が2012年10月から12月であったすべての利用者について、サポステの支援者に回答してもらっている。分析においては、中学在学中・高校在学中を除外した、5,625名の回答を用いている。なお緊急調査への対応として行った補論も収録している。

第二に、ハローワークを通じて、「大学等を中途退学された方の働き方と意識に関する調査」を実施した。調査の実施時期は、2014年8月20日から10月末である。

調査方法は、ハローワークの窓口において、求職者票から中退であることが把握できた40歳未満の対象者に対して調査を依頼することとした。調査票は、各ハローワークに配置されている相談員（全国で598名）一人あたり対象者2名に回答してもらうことを想定して、配布目安を5,980票とした。回収目標数は1,196票とし、回収数が1,107通とほぼ目標に達した10月末で配布・回収を終了した。したがって厳密には正確な回収率を計算することは出来ないが、5,980票を分母とすると回収率は18.5%である。なお無効票等があったため、集計には1,095名の調査票を用いている。

第三に、中退者支援を行っている大学等へのインタビュー調査を2014年夏に実施した。ケース記録は資料として収録している。

さらに調査に先立ち、東京労働局のご協力により、ハローワークの相談員3名、中退者2名に対するプレインタビューを実施した。また、濱名篤関西国際大学学長、読売新聞社の松本美奈記者、NPO法人ニューベリーの山本繁理事長からのプレヒアリングを行った。

第3節 主たる知見

章ごとに知見を整理する。

第1章の知見は以下のように要約される。

「24年調査」によると、大学等中退者は卒業者に比べて離学してから就業するまでの期間が長く、近年さらに長くなる傾向が見られる。正社員までの期間はさらに長く、20代では中退者の6割前後が一度も正社員経験がない。さらに20代では無業や失業のリスクが高く、就業している場合も非正規雇用比率は同じ教育段階の者の2倍となっていた。

30代から40代前半に達している「14年調査」からみると、30代後半から40代にかけて、失業率はかなり改善されるが、非正規雇用比率の差異は男性では残り続けていた。

また過去1年間に何らかの求職活動をした人は全体の26.8%のうち、ハローワーク等の利用経験のある者は、専門・短大・高専中退者では7割近い。大学・大学院中退では男性は6割近くがハローワーク等を利用しているが、女性は5割にとどまる。したがってカテゴリー間の差はあるものの、求職活動の一環としてハローワークを利用する中退者は求職者の5割から7割に達しているため、ハローワークを通じた調査で就業支援を要する中退者の実態を把握することには一定の妥当性が見出せる。

続く第2章、第3章は、ハローワークを通じた調査に基づく知見を整理している。

第2章では、大学在学時から中退までを整理している。

中退時の学年については、専門・短大・高専では1年生が5割以上、大学では2年生と4年生がともに3割前後と高い。全体の4割以上が中退を考え始めてから、3ヶ月未満で実際に中退するに至っており、1年以上の期間を要した者は15%程度であった。また、大学中退者で、中退決定までの期間が長くなる傾向があり、中退を決めるまで半年以上が約4割となっている。

また中退を決めるまでの相談相手(M.A.)としては、親・保護者が79.3%と最も高く、学校の教職員・カウンセラーや学校内外の友人が2割台でそれに続いている。また、誰にも相談しなかった者は全体の12.5%で、大学中退者でその割合は高い。

次に中退理由(M.A.)を見ると、「勉強に興味・関心が持てなかったから」が49.5%と最も高く、「経済的に苦しかったから」は3割弱となっている。また、最も重要な中退理由としては、「学業不振・無関心」を挙げる者が4割以上と高く、「家庭・経済的理由(妊娠・出産含む)」と「進路変更」が15%前後でそれに続いている。「家庭・経済的理由」は、大学中退者の女性で4分の1程度と高い。

さらに大学等入学以前の進路意識を見ると、「大学や学部を選ぶときに、卒業後につきたい仕事のことを考慮した」者は54.5%、「大学に行けば、将来自分がやりたいことが見つかると思った」者は73.8%、「目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学してみようと思った」者は61.3%であった。特に大学中退者の男性でとりあえず進学した者の割合が約7割と高い。また、進路意識と中退理由には関係が見られ、「学業不振・無関心」で大学を中退した者の7割以上が目的を持たずに進学した層であることが確認された。

生活諸面に関わる意識について見ると、「努力次第で将来は切り開ける」、「仕事以外に生きがいがある」に肯定的な回答をした者は6割を超える一方、「自分の生活は周囲の人から上手くいっていると思われている」、「将来の見通しは明るい」、「経済的に自立している」、「現在の生活に満足している」に関しては、3割を下回っていた。また、JILPTによるワークスタイル調査の高等教育卒業者と比較して、この結果は、前2者を除き、かなり低い値であった。

第3章は主に就職活動について分析した。

ハローワーク利用の経緯は、「親」「友人」で6割近くを占め、特に「親」という回答が多かった。中退後に就職活動を始める期間は中退後3ヶ月未満で半数を占めるが、大学中退者は専門学校・短大・高専中退者に比べて遅い傾向がある。また中退理由によって活動開始時期にはばらつきがあり、「進路変更」は活動開始が早く、「病気・ケガ・休養」、「人間関係・大学生活不適応」がやや遅かった。就職活動開始時期とハローワーク利用開始時期はほぼ重なっており、ハローワーク利用者については就職活動の手段としてハローワークが最初の選

択肢として認識されている。

さらに中退時には、「正社員として就職したい」と半数近くの中退者が考えているが、実際に正社員として就職するための準備をした者は3割にとどまり、アルバイトを探したり、在学中から行っていたアルバイトを継続するなどの行動が多く見られた。

また調査時点では「非典型一貫」キャリアが6割あまりを占め、年齢が上がると就業経験のある割合は高くなる。

第4章は、地域若者サポートステーション（以下、サポステ）の支援者に対する調査である。

サポステの利用者における卒業者と中退者を支援者の観点から比較すると、大学等中退者は卒業者に比べて、就職や進路決定に達するまでに長い時間がかかると見なされるタイプが多く含まれており、学校時代に困難な経験をした者が少なくないが、貧困についてはあまりあてはまらないという特徴が見られた。また専門学校・短大・高専中退者では職場での孤立や退職につながる失敗体験、大学中退者では就職活動での失敗体験やメンタルでの課題が見出される。

利用の経緯は、「家族や知人の紹介」、「サポステのチラシやHPで」、「ハローワーク以外の機関の紹介（医療福祉含む）」、「ハローワークからの紹介」が上位に位置しており、卒業者に比べると「学校」という割合は少ない。さらに中退者のみで比較してみると、大学中退者はサポステへの来所が遅い傾向がある。なお利用中断を除く進路決定率（就職／職業訓練／進学）をみると、特に専門学校・短大・高専卒で中退者と卒業者間での進路決定率の差が大きかった。

以上から第一に、大学等の中退は年齢を重ねてもなお職業生活に影響を及ぼしており、労働政策における重要な支援対象とする必要がある。

第二に、大学等と連携した中退時の支援を確立していくことは重要である。

大学等中退者のハローワークの利用経路は「親」が圧倒的に多く、サポステは家族や知人の紹介、ハローワークやハローワーク以外の支援機関の紹介が多くを占めている。いずれも大学等中退者は「学校」を経由して公的支援機関に来所していない。今回の調査対象であるハローワーク利用者の中退支援への要望として中退時に利用できる支援の内容を周知して欲しいことが挙げられていること、またサポステ調査においては、「高等教育在学中」の利用者の29.7%が「学校からの紹介」と回答しているため、学校と公的支援機関の連携が成り立っていないわけではないことから、中退時における学校と公的支援機関の連携は当事者のニーズも高かつ現実的な選択肢としてまず検討されるだろう。

また中退者に対する公的支援の浸透については、専門学校・短大・高専中退者に比べると大学中退者のハローワーク利用率は低く、また大学中退者のハローワークやサポステの利用

開始も相対的に遅い傾向にある。特に大学に対する公的支援の充実が求められる。

第三に、公的支援機関の役割分担として、大学等中退者はハローワーク利用者とサポステ利用者に違いがあることが推察された。ハローワークの大学等中退者は他の支援機関を経ずに来所しているが、サポステの大学等中退者は生活・コミュニケーション・自己イメージの領域で卒業生よりもかなり大きな課題を抱えており、利用の経緯もハローワークやハローワーク以外の支援機関の紹介という割合がハローワークよりも高い。様々な中退者が存在することから、現在のようにハローワークとサポステの双方が中退者を受け止めていくことが包括的な中退者支援にとって効果的であろう。

第四に、労働政策の範囲を超えるが、高等教育への進学率が7割を超え、かつ現在のように入学時点で専攻を決定したり編入学が難しいような高等教育制度の下で、「とりあえず進学」という高校進路指導は、かつてと比べると中退によって破綻しやすくなっている。ハローワーク調査において、最も重要な中退理由と複数回答との関連を見ると(図表序—6)、「病気・ケガ・休養」、「その他」を除くといずれも挙げられやすいのが「勉強に興味・関心が持てなかったから」となっており、中退理由の根底には学業に対する興味関心の欠如が存在するものと考えられる。

図表序—6 中退の最大理由と複数回答との関連

	勉強に興味・関心が持てなかったから	遅刻や欠席が多かったから	単位が不足したから	教員とうまく関われなかったから	友達とうまく関われなかったから	自分の生活リズムが学校と合わなかったから	通学するのが大変だったから	仕事をしたいと思ったから	ほかにやりたいことがあったから	病気やケガがあったから	経済的に苦しかったから	しばらく休みたかったから	妊娠・出産をしたから	特に何もなかった	その他	N
学業不振・無関心	72.9	26.9	63.0	12.8	17.7	9.7	11.1	16.7	13.3	3.1	15.0	4.4	0.0	0.0	12.3	422
人間関係・大学生活不適應	35.1	21.1	33.3	44.7	56.1	27.2	24.6	10.5	7.9	12.3	10.5	8.8	0.0	0.0	17.5	114
進路変更	52.4	18.2	27.3	9.1	11.2	15.4	8.4	58.7	66.4	2.1	19.6	2.1	0.0	0.0	4.9	139
病気・ケガ・休養	25.2	15.7	17.4	13.9	26.1	9.6	9.6	5.2	7.0	67.8	13.9	26.1	0.0	0.0	20.0	115
家庭・経済的理由(妊娠出産含)	18.1	8.8	23.4	4.1	6.4	3.5	7.0	11.1	7.6	4.1	83.6	3.5	9.4	0.0	18.1	171
特に何も無い・その他	5.9	0.0	5.9	11.8	0.0	0.0	5.9	23.5	11.8	0.0	11.8	0.0	0.0	17.6	82.4	12

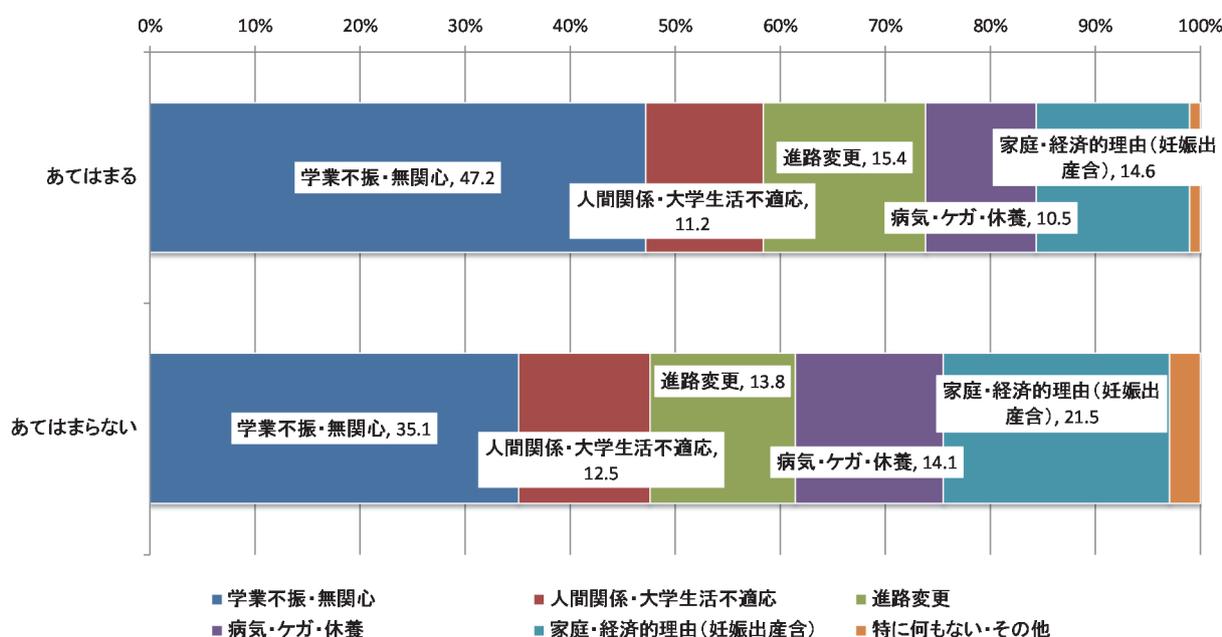
注：上位3位にハイライトした

図表序—7は、進学する学校を選択する際に、「目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学しようと思った」かどうかによって、大学等中退理由の分布がどのように異なるかを

示したものである。「あてはまる」では、「学業不振・無関心」が47.2%を占めるが、「あてはまらない」では「学業不振・無関心」は35.1%であり、「家庭・経済的理由」が21.5%を占める。本調査は中退者かつハローワーク利用者の分析であるものの、「とりあえず進学」は「学業不振・無関心」による中退に結びつきやすい傾向が見られる。

ただし高校進路指導においては、かつてと比べると、大学ランクだけではなく興味関心を重視する方向に転換しており、興味関心による大学選択が出来るようになれば中退が減少するという単純な因果関係は想定しにくい。むしろ大学における学業の興味関心を支えるような基礎学力や、これを補う様々な教育的働きかけが、学業に対する興味関心を高め、学業の継続を可能にすると推測される。

図表序ー7 「目的はあまり考えずに、とりあえず大学に進学してみようと思った」と最も重要な中退理由との関連



注：「大学」は専門学校や短大・高専を含む

さらに従来から指摘されているような専攻決定の遅延や編入学制度の整備など、多様な学生が学業継続できるような制度に取り組まざるを得ない時期が到来しているように見受けられる。資料編のケース記録から見られる傾向としては、大学においては中退に対する局所的な対応というよりは、全学的な教育改革への取り組みが意図されていたが、こうした取り組みが高等教育界全体に広がるのが結果として中退を減少させ、中退者の学校から職業への安定した移行に寄与するものと推測される。

なお本研究は、大学等中退者の実態についてほんの一部を明らかにしたに過ぎない。今後は中退者の実態をより深く明らかにするようなインタビュー調査や、卒業者と比較可能な大

規模調査の実施、大学等を通じた毎年度の中退者の量的把握等が必要となろう。

参考文献

- 姉川恭子, 2014, 「大学の学習・生活環境と退学率の要因分析」九州大学『経済論究』第149号, pp.1-16.
- 濱名篤, 2013, 「大学中退のとらえ方——マクロな視点から」『大学教育学会誌』第35巻第1号, pp.12-16.
- 朴澤泰男, 2012, 「学校基本調査に見る中退と留年」『IDE』2012年12月号, pp.64-67.
- 鍛冶致, 2010, 「新設大学における退学・休学・留年」『日本教育社会学会大会発表要旨集録』(62), pp.392-393.
- 河野銀子, 1997, 「大学におけるスループットの検討——退学者のインタビューを中心として」『山形大学教育実践研究』山形大学教育学部附属教育実践研究指導センター, pp.71-82.
- 小林信一, 1999, 「留年とドロップアウト」『IDE』, pp.43-46.
- 丸山文裕, 1984, 「大学退学に対する大学環境要因の影響力の分析」『教育社会学研究』第39集, pp.140-153.
- 三輪哲・下瀬川陽, 2014, 「戦後日本における高等教育中退に対する出身階層の影響」第87回日本社会学会大会発表資料.
- 村澤昌崇, 2008, 「大学中途退学の計量的分析」『比治山高等教育研究』(1), pp.153-165.
- 労働政策研究・研修機構, 2012, 『大都市の若者の就業行動と意識の展開』労働政策研究報告書No.148.
- Robbins, S. B., K. Lauver, H. Le, D. Davis, R. Langley & A. Carlstrom, 2004, “Do Psychosocial and Study Skill Factors Predict College Outcomes?: A Meta-Analysis” *Psychological Bulletin*, Vol.130, No.2, pp.261-288.
- 清水一, 2013, 「大学の偏差値と退学率・就職率に関する予備的分析」『大阪経大論集』第64巻第1号, pp.57-70.
- Trow, Martin A., 1976, *Social Impact of the Expansion of Higher Education* (=天野郁夫・喜多村和之訳, 1983, 『高学歴社会の大学』東京大学出版会).
- 東京大学政策ビジョン研究センター, 2014, 『「専修学校における生徒・学生支援等に対する基礎調査」調査研究報告書』.
- 内田千代子, 2013, 『大学における休・退学, 留年学生に関する調査 第33報』.
- 山本繁, 2012, 「学生の中退防止」『IDE』2012年12月号, pp.30-36.
- 山下仁司, 2014, 「大学生の中退防止に向けて——入学時退学意向の要因は何か」
<http://berd.benesse.jp/koutou/topics/index2.php?id=4131>

第1章 中途退学後の職業キャリア：「21世紀成年者縦断調査」の2次集計より

第1節 はじめに

本章においては、大学等を中途退学した後の職業キャリアの特徴について、厚生労働省が継続的に実施している「21世紀成年者縦断調査」の個票データを用いた分析を行う。

この調査は、中途退学者のキャリアを明らかにする目的で行われているものではなく、少子化対策等の施策立案のための基礎資料として、若い男女の結婚、出産、就業等の実態及び意識の経年変化を明らかにするために行われているものである。その設問の中に、学校を中退したか卒業したかを問うもの、および、ある程度の範囲で職業経歴を問うものがあることから、この個票データを分析することで、大学等を中退後の職業キャリアの一端を明らかにすることができると思われる。

「21世紀成年者縦断調査」は、同一の対象者に長期にわたり設問に答えてもらうパネル調査である。平成14年に20～34歳であった全国の男女33,689人（第1回調査時点）を対象とする「14年調査」と、平成24年に20～29歳であった全国の男女39,892人（第1回調査時点）を対象とする「24年調査」の2つのパネルが設定されている。「14年調査」はすでに第11回目までの調査結果が公表されており、「24年調査」は第1回目の結果のみが公表されている。いずれも調査対象となったのは、「国民生活基礎調査」の調査地区から無作為抽出した地区の当該年齢の男女（及びその配偶者）である。

学校経歴（卒業・中退・在学中の別、及び卒業・中退の時期）については、この2つのパネルの各回調査の本人票において把握されているが、卒業・中退から調査時点までの職業経歴については、「14年調査」の第2回目（本人票：「2003年調査」と呼ぶ）、および「24年調査」の第1回目（本人票：「2012年調査」と呼ぶ）においてのみ把握されている。この2つの個票データを用いれば、中途退学後の職業キャリアが検討できる。また、「14年調査」については1回目から11回目までの調査を接続した「履歴データ」（11回目調査時の対象者の年齢は30～44歳）が作成されている。このデータを用いれば、中途退学の長期的な影響が検討できる可能性が高い¹。

そこで、JILPTでは、厚生労働省統計情報部に申請して許可をいただき、この3つの個票データを用いて、独自の集計を行うこととした。

なお、今回の集計は中途退学後のキャリアがテーマであることから、分析する個票については、①中途退学したか卒業したかがわかり（すなわち、在学中の者や中退か卒業かに答えていない者は除く）、同時に②現在の就業の有無が把握できる者であって、かつ、③調査時点における就業者であっても「通学が主」の場合は除外することとした。この結果、分析対象となった個票数は、「2003年調査」については19,805票（男性9,297票、女性10,508票）、「2012

¹ ただし、「履歴データ」には各回すべての情報が含まれているわけではない。特に、第2回目調査の職業経歴データは接続されていないため、経歴にかかわる分析は限定される。

年調査」については23,178票（男性11,094票、女性12,084票）、「履歴データ」については10,092票（男性4,566票、女性5,526票）となった（いずれも本人票）。

以下、分析の手順は、1) 最新の調査である「2012年調査」をもとに、中途退学者の数・比率、性別等の特徴について明らかにする。同時に「2003年調査」との比較からその近年の変化についても明らかにする。2) 「2012年調査」をもとに、中途退学以降の最初の就業、最初の正社員就業までの期間を明らかにし、また、「2003年調査」との比較からその期間がどのように変化したか検討する。3) 「2012年調査」をもとに、最初の就業から現職までの就業形態に注目した職業キャリア類型を作成し、中途退学をした場合のキャリアの特徴を明らかにする。4) 「2012年調査」調査時点における就業にかかわる諸状況を明らかにし、中途退学がこれらにどのように影響しているかを検討する。併せて「2003年調査」との比較から就業状況に対する中途退学の影響の度合いが変化しているかどうか検討する、5) 「2012年調査」調査時点における家族形成及び健康の状況を明らかにし、中途退学との関係を検討する。6) 「履歴データ」から、30～44歳時点における就業状況や家族形成等に対して、過去の学校中退が与える長期的な影響について検討する。さらに、7) 「2012年調査」では、前年1年間のハローワーク等の公的機関での求職活動の経験の有無が把握できることから、ハローワークを利用する中途退学者の特徴を検討し、別途行なった「ハローワークに来所する中途退学者調査」を分析する際に参考となる情報を提供する。8) 最後にこの章での検討結果をまとめる。

第2節 中途退学の頻度と変化

「2012年調査」においては、全体（男女計）に占める大学中退者の割合は2.9%、専門学校中退者は2.5%、短大・高専中退者は0.5%、大学院中退者は0.1%となっている（図表1-1）。これらの合計である高等教育中退者の割合は全体の6.0%、これに高校中退者（4.4%）等も加えた全中退者は10.6%となる。すなわち、在学中の者を除く20歳代の若者の10人に1人は中途退学者であるということである。これを性別にみると、短大・高専中退を除くすべての学校段階において男性の方が中途退学者の割合は大きく、男性に限れば8人に1人は中途退学者である。

文部科学省では学校を通じた調査によって、高校からの中途退学者数を毎年公表しているが²、この数字は当該学校を退学した数であり、退学直後に、通信制などの他の高校に転学した場合や、高等学校卒業程度認定試験を受けて大学に進学している場合もこの中退者数には含まれる。本分析においては、すでに学校を離れた人のみを対象にしていることから、ここ

² 文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」によれば、2012年度の高校中退者数は51,781人（高校在籍者数の1.5%、ただし2010年度入学者の2012年度末までの中退率を各学年での中退数から推計すると中退率はおよそ5%）となっている。また、大学・短大・高専からの中途退学者数については定期的に公表されている調査はなく、2012年度末79,311人、2008年度末49,394人、2007年度末63,421人という数が公表されている（文部科学省2010、2014a）。専門学校からの中退についても定期的に公表はされていないが、2012年度末30,322人、2011年度末29,761人、2010年度末28,374人という数が公表されている（文部科学省2014b）。

で把握された数には、その後に再入学等する可能性はあるものの、直後に転学したような人は含まれず、ほぼ確定した中退者数だとみることができる。そこでの10人に1人という比率は、やはり大きな数値である。

図表1-1 対象者の学歴構成

単位：%、太字は実数

	2012年調査 (20～29歳)						2003年調査 (21～35歳)	
	男性		女性		男女計		男女計	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
中学卒	271	2.4	164	1.4	435	1.9	385	1.9
高校卒	4,209	37.9	3,732	30.9	7,941	34.3	7,163	36.2
卒業 専門学校卒	1,820	16.4	2,511	20.8	4,331	18.7	3,593	18.1
業 短大・高専卒	330	3.0	1,821	15.1	2,151	9.3	2,732	13.8
者 大学卒	2,679	24.1	2,638	21.8	5,317	22.9	4,077	20.6
大学院卒	254	2.3	100	0.8	354	1.5	265	1.3
他・不明の学校卒	112	1.0	90	0.7	202	0.9	119	0.6
中退者 高校中退	562	5.1	457	3.8	1,019	4.4	691	3.5
専門学校中退	284	2.6	300	2.5	584	2.5	362	1.8
短大・高専中退	45	0.4	80	0.7	125	0.5	84	0.4
大学中退	488	4.4	174	1.4	662	2.9	302	1.5
大学院中退	22	0.2	8	0.1	30	0.1	24	0.1
他・不明の学校中退	18	0.2	9	0.1	27	0.1	8	0.0
中退者計(再掲)	1,419	12.8	1,028	8.5	2,447	10.6	1,471	7.4
合計	11,094	100.0	12,084	100.0	23,178	100.0	19,805	100.0

* 2003年調査の男女別については、章末の付表1に示した。

では、中退者は増えているのか。「2003年調査」で全体に占める中退者の割合をみると、大学中退者で1.5%、全中退者で7.4%と、「2012年調査」より明らかに低い。すなわち、全体に占める中退者の割合は高まっており、なかでも大学中退者の増加は著しい。

ここで留意すべきなのは、本調査対象は20～29歳であり、「2003年調査」の調査対象である年齢幅(21～35歳)と異なること、かつ、ここでの分析においては、大学や大学院在学中の者をあらかじめ分析対象から除いていることである。そのため、20歳代前半では、大学・大学院中退者の割合は高めになることになる。そこで、対象を20歳代前半と後半に2分し、大学・大学院中退者の割合などを検討する際には、20歳代後半に注目することにしたい。図表1-2は、年齢段階を2つに分けたときの学歴構成である。

25～29歳層に注目すると、中退者の割合は大学中退が2.8%、専門学校中退が2.3%、短大・高専中退が0.6%、大学院中退が0.2%となった。「2003年調査」結果もこれに合わせて25～29歳層のみを取り出して示す(表の右側)。こちらの大学中退は1.7%、専門学校中退が2.0%などであり、10年ほど前に比べて中退者の割合は明らかに増加している。高校中退者の割合もこの間3.0%から4.5%へと高まっており、20歳代後半層全体に対する中途退学者の割合は2003年の7.5%から2012年の10.5%へと高まった。なお、ここからこの間の増加率を推計すると、大学中退者が1.6倍と最も高い。

図表 1-2 年齢段階別対象者の学歴構成

単位：％、太字は実数

	2012年調査						2003年調査			2003-2012年 間の増加率 (男女計)
	20～24歳			25～29歳			25～29歳			
	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計	
中学卒	2.4	1.5	1.9	2.4	1.3	1.8	2.4	0.9	1.6	
高校卒	46.8	35.2	40.6	32.2	27.9	30.0	35.6	30.0	32.7	
専門学校卒	15.5	20.2	18.0	17.0	21.2	19.2	18.4	18.5	18.5	
短大・高専卒	3.0	17.0	10.4	2.9	13.7	8.5	3.5	24.1	14.2	
大学卒	17.4	16.6	16.9	28.6	25.5	27.0	27.2	20.0	23.5	
大学院卒	0.5	0.1	0.3	3.4	1.3	2.3	2.4	0.7	1.5	
他・不明の学校卒	1.3	0.9	1.1	0.8	0.6	0.7	0.5	0.4	0.4	
高校中退	5.1	3.7	4.3	5.1	3.9	4.5	4.1	2.1	3.0	1.5
専門学校中退	3.1	2.5	2.8	2.2	2.5	2.3	2.3	1.7	2.0	1.2
短大・高専中退	0.4	0.6	0.5	0.4	0.7	0.6	0.4	0.8	0.6	0.9
大学中退	4.4	1.6	2.9	4.4	1.3	2.8	2.8	0.7	1.7	1.6
大学院中退	0.1	0.0	0.1	0.3	0.1	0.2	0.3	0.0	0.1	1.3
他・不明の学校中退	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	-
中退者計(再掲)	13.1	8.5	10.7	12.6	8.5	10.5	10.0	5.3	7.5	
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
(N)	4,368	4,982	9,350	6,723	7,101	13,824	3,160	3,437	6,597	

さて、以降の分析においては、学歴段階ごとの特徴を見ていくことになるが、数の少ない学歴区分については分析することが難しくなる。そこで、以下では、大学院中退は大学中退とあわせて、短大・高専中退は専門学校中退とあわせて取り扱うことにする。卒業生についても比較のために同じ区分を用いる。また煩雑さを避けるため、「他、不明の学校」については、卒業生も中退者も表中に掲載することを省く。

分析に先立って、地域によって中退者の比率が異なるか否かを確認しておく。「2012年調査」では、居住地は「政令指定都市、東京都特別区」、「左記以外の市」、「左記以外の郡部」に区別できる³。図表 1-3 に示す通り、大学・大学院中退者の割合が大きいのは「政令指定都市、東京都特別区」である。大都市部は大学・大学院卒業生の割合もひとときわ高い。大学そのものが大都市に集中しており、中途退学後も大都市に居住し続ける場合が多いと考えられる。

³ 「2003年調査」では地域に関する変数はない。

図表 1-3 地域別対象者の学歴構成 (2012 年調査)

単位：％、太字は実数

	男性			女性			男女計		
	政令指定 都市、東京 都特別区	左記以外 の市	左記以外 の郡部	政令指定 都市、東京 都特別区	左記以外 の市	左記以外 の郡部	政令指定 都市、東京 都特別区	左記以外 の市	左記以外 の郡部
中学卒	2.4	2.4	2.7	1.3	1.4	1.3	1.8	1.9	2.0
高校卒	26.5	39.7	44.6	22.3	32.4	35.6	24.3	35.9	39.9
専門・短大・高専卒	20.0	19.0	20.4	36.0	35.5	37.3	28.5	27.6	29.1
大学・大学院卒	35.7	25.5	18.5	31.8	21.2	16.8	33.6	23.3	17.6
高校中退	5.5	5.0	4.9	2.8	4.0	4.1	4.1	4.5	4.5
専門・短大・高専中退	3.0	2.9	3.0	2.7	3.2	3.5	2.9	3.1	3.2
大学・大学院中退	6.0	4.3	4.4	2.2	1.4	1.1	4.0	2.8	2.7
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	2,036	7,569	1,489	2,297	8,194	1,593	4,333	15,763	3,082

* 大学院中退は大学中退に、短大・専門学校中退は専門学校中退と合わせて表示した。卒業の場合もこれに合わせてくくった。また、「他・不明の学校卒」「他・不明の学校中退」については掲載を省く。この学歴の扱いは以下の図表すべてに共通する。

第3節 就業への移行、正社員就業への移行

この節では、中途退学した後の就業への移行について検討する。

卒業や中退で学校を離れて（以降、離学という）から、何らかの職に就くまでの期間を見たのが図表 1-4 である。男女計に注目すると、「離学～3ヶ月以内」に就業した者は、高校中退では2割に、大学・大学院中退、専門・短大・高専中退では3割に満たない。それ以降「3年以内」に就業した場合のほうが多い。「3年以上」かかった者と現在も「未就業・不明⁴」の者を合わせると、高校中退で3割、高等教育中退で2割前後を占める。また、在学中からのアルバイトなどを継続していると思われる「離学前」⁵が1～2割に達している。同じ教育段階の卒業者の場合、6～7割が「離学～3ヶ月以内」に就業しているのとは対照的である。この傾向に男女別の違いはほとんど見られない。

⁴ ここでの不明は、現在は無業であって、就業経験の有無が不明である者ということである。

⁵ 中退者で初職入職時点が「離学前」である者の場合、初職の就業形態がアルバイト、パート等の非正規か家業手伝いである者が「2012年調査」では91%、「2003年調査」では74%を占めている。なお、調査では離学後の就業について問うているが、離学直後の就業状況を記載するために、離学前の入職時期が記入されていると解釈した。

図表 1-4 学歴別 離学から就業までの期間

単位：％、太字は実数

		離学前	離学～3ヶ月以内	3年以内	3年超	期間不明 *1	未就業、 不明*2	合計		
2012年調査	男性	中学卒	1.5	20.3	12.2	25.1	27.3	13.7	100.0	271
		高校卒	2.1	61.1	11.8	6.6	14.9	3.5	100.0	4,209
		専門・短大・高専卒	4.3	62.1	12.9	4.2	14.0	2.6	100.0	2,150
		大学・大学院卒	4.1	65.2	13.0	2.0	11.2	4.5	100.0	2,933
		高校中退	6.8	19.2	23.1	15.5	24.7	10.7	100.0	562
		専門・短大・高専中退	10.9	29.5	29.2	8.5	11.9	10.0	100.0	329
		大学・大学院中退	19.4	24.7	25.3	4.7	11.8	14.1	100.0	510
	合計	4.4	56.5	14.0	5.8	14.4	5.0	100.0	11,094	
	女性	中学卒	1.2	17.1	20.1	16.5	14.0	31.1	100.0	164
		高校卒	3.3	59.7	11.4	6.9	13.2	5.5	100.0	3,732
		専門・短大・高専卒	6.2	65.3	10.0	4.4	12.2	1.8	100.0	4,332
		大学・大学院卒	2.9	73.9	10.1	2.1	9.1	2.0	100.0	2,738
		高校中退	10.5	12.7	21.4	17.7	20.6	17.1	100.0	457
		専門・短大・高専中退	13.9	26.6	27.9	8.2	13.2	10.3	100.0	380
大学・大学院中退		19.8	21.4	27.5	5.5	12.6	13.2	100.0	182	
合計	5.1	60.9	11.9	5.5	12.1	4.6	100.0	12,084		
男女計	中学卒	1.4	19.1	15.2	21.8	22.3	20.2	100.0	435	
	高校卒	2.7	60.4	11.6	6.7	14.1	4.5	100.0	7,941	
	専門・短大・高専卒	5.6	64.2	11.0	4.4	12.8	2.1	100.0	6,482	
	大学・大学院卒	3.5	69.4	11.6	2.1	10.2	3.3	100.0	5,671	
	高校中退	8.4	16.3	22.4	16.5	22.9	13.5	100.0	1,019	
	専門・短大・高専中退	12.6	27.9	28.5	8.3	12.6	10.2	100.0	709	
	大学・大学院中退	19.5	23.8	25.9	4.9	12.0	13.9	100.0	692	
合計	4.8	58.8	12.9	5.6	13.2	4.8	100.0	23,178		
2003年調査	男女計	中学卒	3.1	30.1	10.1	9.9	41.3	5.5	100.0	385
		高校卒	7.4	63.9	6.6	2.1	18.4	1.6	100.0	7,163
		専門・短大・高専卒	9.0	68.2	7.5	2.1	12.0	1.1	100.0	6,325
		大学・大学院卒	7.3	69.5	8.6	1.4	10.8	2.4	100.0	4,342
		高校中退	12.0	21.4	23.7	5.1	33.6	4.2	100.0	691
		専門・短大・高専中退	19.1	25.1	24.0	2.9	26.5	2.5	100.0	446
		大学・大学院中退	20.6	28.5	24.2	2.1	15.0	9.5	100.0	326
合計	8.6	62.8	8.7	2.2	15.7	2.0	100.0	19,805		

*1 期間不明は、就業経験があることは確認されたが、最初の就業時期が不明な者。

*2 ここでの不明は、現在無業であり、就業経験の有無が不明な者。

* 2003年調査の男女別については、章末の付表2①に示した。

また、「2003年調査」(下段)の中退者と比べてみると、全般的に2012年の方が「離学～3か月以内」と「離学前」が少なく、「3年超」や「未就業・不明」が多い傾向が読み取れる⁶。この傾向は卒業生にも共通しているが変化の幅は小さい。すなわち、就業への移行は全般的にやや時間がかかる方向に変化したが、中退者の変化の方がより顕著だといえる。

さて、「2003年調査」はより高い年齢層まで含んでいるので観察期間が長いこと、また、20歳代前半層においては前述のとおり在学中の者を除いていることから、このまま大学等卒業生と比較するのは適切ではない。そこで、図表1-5には、25～29歳層に絞った場合の結果を示した。図表1-5①はすべての学歴について示しており、②、③は大学・大学院卒、

⁶ 2003年調査と2012年調査では就業経験についての設問の構成が変わっており、離学から最初の就業(あるいは最初の正社員就業)までの期間の測定は同じ手順では行っていない。両者の比較の際は、この点に留意する必要がある。

同中退に絞って図にしている。

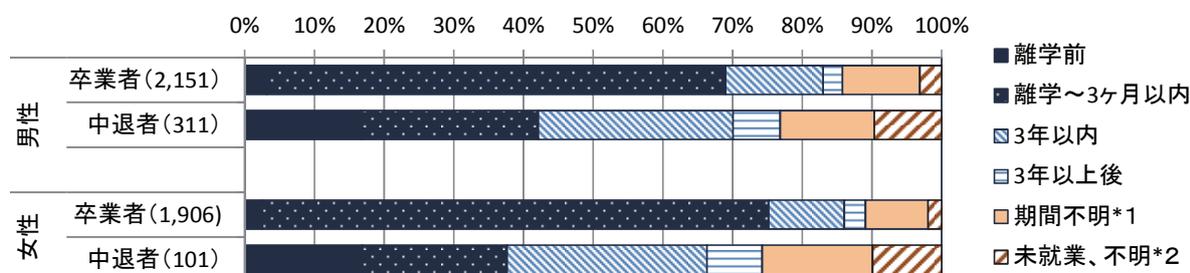
図表 1-5 就業までの期間 (25~29 歳)

①全体状況

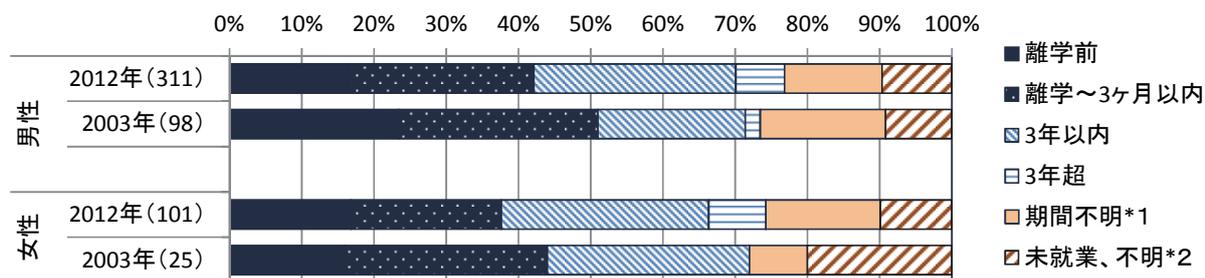
単位：％、太字は実数

		離学前	離学～3ヶ月以内	3年以内	3年超	期間不明*1	未就業、不明*2	計(N)		
2012年調査	男性	中学卒	1.8	21.3	10.4	26.8	29.3	10.4	100.0	164
		高校卒	1.9	58.9	10.4	9.4	16.1	3.2	100.0	2,164
		専門・短大・高専卒	4.4	60.9	12.4	5.7	14.8	1.9	100.0	1,342
		大学・大学院卒	3.2	65.8	14.0	2.8	11.1	3.1	100.0	2,151
		高校中退	5.9	19.4	22.6	19.1	25.5	7.6	100.0	341
		専門・短大・高専中	11.7	25.1	30.2	13.4	10.6	8.9	100.0	179
		大学・大学院中退	16.7	25.4	28.0	6.8	13.5	9.6	100.0	311
		合計	4.0	55.9	13.9	7.4	14.8	3.9	100.0	6,723
	女性	中学卒	0.0	16.9	20.2	19.1	14.6	29.2	100.0	89
		高校卒	2.8	56.8	11.5	9.6	13.5	5.8	100.0	1,978
		専門・短大・高専卒	6.2	63.3	9.8	6.6	11.9	2.2	100.0	2,481
		大学・大学院卒	2.5	72.7	10.9	3.0	9.0	1.9	100.0	1,906
高校中退		9.1	13.1	18.2	20.4	22.2	17.1	100.0	275	
専門・短大・高専中		9.9	26.6	29.3	10.8	13.5	9.9	100.0	222	
大学・大学院中退		16.8	20.8	28.7	7.9	15.8	9.9	100.0	101	
合計		4.6	59.6	11.9	7.4	12.1	4.5	100.0	7,101	
男女計	中学卒	1.2	19.8	13.8	24.1	24.1	17.0	100.0	253	
	高校卒	2.4	57.9	10.9	9.5	14.9	4.4	100.0	4,142	
	専門・短大・高専卒	5.6	62.5	10.7	6.3	12.9	2.1	100.0	3,823	
	大学・大学院卒	2.9	69.0	12.5	2.9	10.1	2.6	100.0	4,057	
	高校中退	7.3	16.6	20.6	19.6	24.0	11.9	100.0	616	
	専門・短大・高専中	10.7	25.9	29.7	12.0	12.2	9.5	100.0	401	
	大学・大学院中退	16.7	24.3	28.2	7.0	14.1	9.7	100.0	412	
	合計	4.3	57.8	12.9	7.4	13.4	4.2	100.0	13,824	
2003年調査	男女計	中学卒	4.6	29.6	9.3	10.2	41.7	4.6	100.0	108
		高校卒	8.0	62.1	7.1	1.5	19.6	1.6	100.0	2,157
		専門・短大・高専卒	9.6	67.8	9.2	1.7	10.8	0.9	100.0	2,159
		大学・大学院卒	8.4	67.5	11.0	0.7	10.4	1.9	100.0	1,647
		高校中退	8.0	22.6	28.1	4.0	33.7	3.5	100.0	199
		専門・短大・高専中退	19.1	24.3	23.7	4.6	25.4	2.9	100.0	173
		大学・大学院中退	22.0	27.6	22.0	1.6	15.4	11.4	100.0	123
		合計	9.2	61.9	10.1	1.7	15.3	1.8	100.0	6,597

②大学・大学院卒及び同中退者 (25~29 歳) の就業までの期間



③大学・大学院中退者（25～29歳）の就業までの期間の変化



*1 期間不明は、就業経験があることは確認されたが、最初の就業時期が不明な者。

*2 ここでの不明は、現在無業であり、就業経験の有無が不明な者。

* 2003年調査の男女別については、章末の付表2②に示した。

* 図の（ ）内は対象数。

図表1-5②にみるとおり、大学・大学院中退者は卒業者に比べて、離学直後に就業した者が少なく、就業までに時間かかっていたり、未就業の者が多い。中途退学後の就業への移行は卒業者と比べて円滑ではない。図表1-5③は最近10年程度の変化を見るために行った「2003年調査」との比較である。「2003年調査」においても「2012年調査」と同様に中退者には就業までに時間がかかった者が多いが、近年の方がさらに、卒業直後に就業し始めた者が減り、就業までに時間のかかる者が増えているといえる。

次に、正社員としての就業に焦点を当てよう。正社員と正社員以外の就業形態の間には、平均的には、賃金や能力開発機会、社会保障への包摂などについて、違いがあることが指摘されている。中途退学の有無によって、離学から正社員就業までの期間が異なるのか、あるいは、正社員就業に至っているのかを検討することは重要だろう。

図表1-6にみるとおり、学校中退者では離学直後に正社員⁷として就業している者は大学・大学院中退で10.4%、高校中退なら3.8%と、ごくわずかであり、卒業者の場合のそれが半数前後であるのと対照的である。さらに、中退者には、観察期間中に正社員に一度も就いていない「正社員移行なし」が半数近く、就業経験が全くない「未就業」も1割以上おり、これを合わせると中途退学者の6割程度は正社員経験が全くない。男女別には、明らかに女性の方が正社員経験がない者が多い。

⁷ 調査票では「正規の職員・従業員」

図表 1-6 学歴別 正社員就業までの期間

単位：％、太字は実数

		離学前	離学～3ヶ月以内	3年以内	3年超	正社員時期不明	正社員移行なし	就業形態不明	未就業	合計		
2012年調査	男性	中学卒	0.4	9.6	4.1	10.7	13.7	42.4	5.5	13.7	100.0	271
		高校卒	0.9	48.9	6.2	3.7	8.1	20.2	8.5	3.5	100.0	4,209
		専門・短大・高専卒	2.0	47.2	7.0	3.1	7.1	20.9	10.1	2.6	100.0	2,150
		大学・大学院卒	1.0	52.7	6.7	1.4	5.5	19.2	9.0	4.5	100.0	2,933
		高校中退	1.8	6.2	12.1	8.7	16.0	38.6	5.9	10.7	100.0	562
		専門・短大・高専中退	1.5	10.6	14.0	4.0	11.6	42.6	5.8	10.0	100.0	329
		大学・大学院中退	1.2	10.8	12.2	2.7	8.4	42.9	7.6	14.1	100.0	510
	合計	1.2	43.3	7.2	3.4	7.8	23.4	8.6	5.0	100.0	11,094	
	女性	中学卒	0.0	1.2	3.0	2.4	2.4	57.3	2.4	31.1	100.0	164
		高校卒	0.7	41.7	5.4	2.9	5.8	31.3	6.7	5.5	100.0	3,732
		専門・短大・高専卒	3.2	48.2	5.8	2.6	6.3	24.1	8.0	1.8	100.0	4,332
		大学・大学院卒	0.9	58.4	5.2	1.5	4.8	19.1	8.1	2.0	100.0	2,738
		高校中退	0.2	0.9	5.0	4.6	3.9	62.6	5.7	17.1	100.0	457
		専門・短大・高専中退	0.5	6.6	11.8	4.2	8.2	53.4	5.0	10.3	100.0	380
大学・大学院中退		0.0	9.3	11.0	2.7	7.1	53.3	3.3	13.2	100.0	182	
合計	1.6	44.0	5.7	2.5	5.7	28.6	7.3	4.6	100.0	12,084		
男女計	中学卒	0.2	6.4	3.7	7.6	9.4	48.0	4.4	20.2	100.0	435	
	高校卒	0.8	45.5	5.8	3.3	7.0	25.4	7.6	4.5	100.0	7,941	
	専門・短大・高専卒	2.8	47.9	6.2	2.7	6.6	23.0	8.7	2.1	100.0	6,482	
	大学・大学院卒	1.0	55.5	6.0	1.4	5.2	19.1	8.6	3.3	100.0	5,671	
	高校中退	1.1	3.8	8.9	6.9	10.6	49.4	5.8	13.5	100.0	1,019	
	専門・短大・高専中退	1.0	8.5	12.8	4.1	9.7	48.4	5.4	10.2	100.0	709	
	大学・大学院中退	0.9	10.4	11.8	2.7	8.1	45.7	6.5	13.9	100.0	692	
合計	1.4	43.6	6.4	2.9	6.7	26.1	7.9	4.8	100.0	23,178		
2003年調査	男女計	中学卒	1.6	17.4	6.0	6.8	17.7	37.1	8.1	5.5	100.0	385
		高校卒	4.9	55.3	4.1	1.4	11.7	15.5	5.5	1.6	100.0	7,163
		専門・短大・高専卒	5.5	57.5	5.8	1.7	8.3	14.7	5.4	1.1	100.0	6,325
		大学・大学院卒	3.8	58.5	5.3	1.0	7.4	15.3	6.2	2.4	100.0	4,342
		高校中退	3.2	9.1	13.3	4.2	19.4	40.1	6.5	4.2	100.0	691
		専門・短大・高専中退	5.4	11.9	15.0	2.9	19.7	36.3	6.3	2.5	100.0	446
		大学・大学院中退	4.6	16.0	16.0	2.5	12.6	34.4	4.6	9.5	100.0	326
合計	4.8	52.5	5.7	1.7	10.2	17.3	5.7	2.0	100.0	19,805		

* 2003年調査の男女別については、章末の付表3①に示した。

「2003年調査」と比べてみると、やはり全般的に「離学～3か月以内」と「離学前」が減り「正社員移行なし」「3年超」「未就業・不明」が増える傾向がみられる。卒業者と中退者とはその変化の度合いが異なり、中退者では「正社員移行なし」や「未就業」はそれぞれ5～10%ポイントほどの増加となっている。さらに中退者では「3年以内」も減少しており、中退者の正社員への移行の困難度は高まっていると推測される。

大学・大学院卒業者との比較については、先に述べたとおり、20歳代後半層に絞って検討したほうがよい。図表1-7②でそれを見ると、やはり明らかに卒業者と中退者では、正社員就業の有無、離学からの期間は異なり、中途退学者では、正社員になっていない者、なったとしても離学から時間がかかった者が多い。

図表1-7③は、大学・大学院中退者の正社員への移行状況を「2003年調査」と比較したものである。「2003年調査」の大学・大学中退女性はケースがごく少ない（25ケース）ので留意が必要だが、離学直後の正社員就業者比率は減少し、時間のかかった者が増えているこ

とは確認できる。

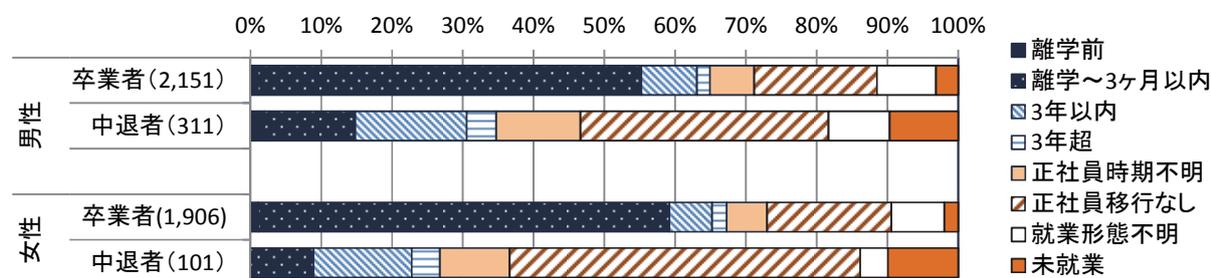
図表 1-7 正社員就業までの期間（25～29 歳）

① 全体状況

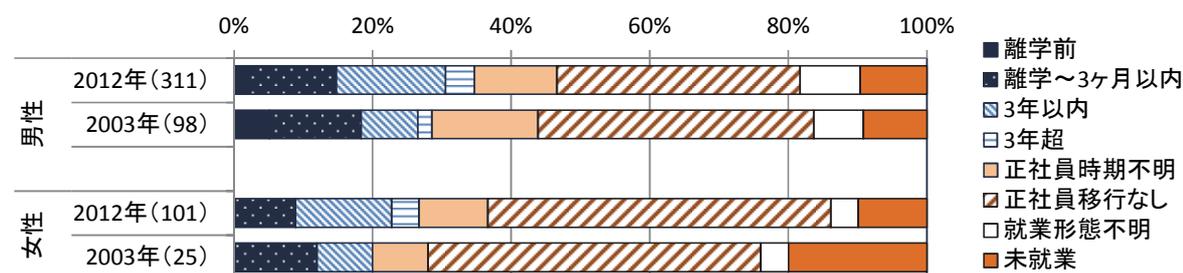
単位：％、太字は実数

		離学前	離学～3ヶ月以内	3年以内	3年超	正社員時期不明	正社員移行なし	就業形態不明	未就業	合計		
2012年調査	男性	中学卒	0.6	11.6	3.0	12.8	16.5	40.2	4.9	10.4	100.0	164
		高校卒	0.7	45.7	6.7	5.7	10.6	19.5	7.8	3.2	100.0	2,164
		専門・短大・高専卒	2.4	46.1	7.6	4.5	8.6	19.4	9.4	1.9	100.0	1,342
		大学・大学院卒	1.1	54.2	7.9	1.9	6.2	17.3	8.4	3.1	100.0	2,151
		高校中退	2.1	6.5	13.5	10.6	17.0	36.1	6.7	7.6	100.0	341
		専門・短大・高専中退	2.8	9.5	16.8	6.7	11.7	36.9	6.7	8.9	100.0	179
		大学・大学院中退	1.9	12.9	15.8	4.2	11.9	35.0	8.7	9.6	100.0	311
		合計	1.4	42.9	8.2	4.6	9.4	21.5	8.2	3.9	100.0	6,723
	女性	中学卒	0.0	2.2	2.2	4.5	3.4	56.2	2.2	29.2	100.0	89
		高校卒	0.7	39.0	6.0	4.3	6.7	32.5	5.0	5.8	100.0	1,978
		専門・短大・高専卒	3.5	47.1	6.9	4.0	7.7	22.7	6.1	2.2	100.0	2,481
		大学・大学院卒	1.1	58.1	6.0	2.1	5.7	17.6	7.5	1.9	100.0	1,906
高校中退		0.4	1.1	4.7	6.5	4.7	60.4	5.1	17.1	100.0	275	
専門・短大・高専中退		0.9	8.1	12.2	5.9	8.1	50.9	4.1	9.9	100.0	222	
大学・大学院中退		0.0	8.9	13.9	4.0	9.9	49.5	4.0	9.9	100.0	101	
合計		1.8	43.5	6.5	3.7	6.8	27.3	6.0	4.5	100.0	7,101	
男女計	中学卒	0.4	8.3	2.8	9.9	11.9	45.8	4.0	17.0	100.0	253	
	高校卒	0.7	42.5	6.4	5.1	8.8	25.7	6.5	4.4	100.0	4,142	
	専門・短大・高専卒	3.1	46.7	7.1	4.2	8.0	21.5	7.2	2.1	100.0	3,823	
	大学・大学院卒	1.1	56.0	7.0	2.0	6.0	17.5	8.0	2.6	100.0	4,057	
	高校中退	1.3	4.1	9.6	8.8	11.5	46.9	6.0	11.9	100.0	616	
	専門・短大・高専中退	1.7	8.7	14.2	6.2	9.7	44.6	5.2	9.5	100.0	401	
	大学・大学院中退	1.5	11.9	15.3	4.1	11.4	38.6	7.5	9.7	100.0	412	
	合計	1.6	43.2	7.3	4.1	8.0	24.5	7.0	4.2	100.0	13,824	
2003年調査	男女計	中学卒	2.8	16.7	5.6	6.5	16.7	39.8	7.4	4.6	100.0	108
		高校卒	5.5	53.2	4.4	0.8	12.3	16.6	5.5	1.6	100.0	2,157
		専門・短大・高専卒	5.4	55.7	7.1	1.6	9.0	15.0	5.3	0.9	100.0	2,159
		大学・大学院卒	4.7	54.4	6.0	0.6	8.1	18.0	6.4	1.9	100.0	1,647
		高校中退	3.0	8.5	14.1	4.0	22.1	40.7	4.0	3.5	100.0	199
		専門・短大・高専中退	4.6	11.0	15.0	2.3	25.4	32.4	6.4	2.9	100.0	173
		大学・大学院中退	4.1	13.0	8.1	1.6	13.8	41.5	6.5	11.4	100.0	123
		合計	5.1	50.4	6.4	1.3	10.9	18.5	5.7	1.8	100.0	6,597

② 大学・大学院卒及び同中退者（25～29 歳）の正社員就業までの期間



③ 大学・大学院中退者（25～29歳）の正社員就業までの期間の変化



* 2003年調査の男女別については、章末の付表3②に示した。

* 図の（ ）内は対象数。

第4節 初職と職業キャリア

この節では、離学後最初に就いた仕事から調査時点現在までの職業キャリアについて検討する⁸。職業キャリアは多面的に捉えられるが、ここでは就業形態に注目し、離学から現在までに経験した就業形態を連続的に捉えたものとする。

調査では対象者に職歴表の記載を求めている。これは、現職以前に就業経験がある場合、離学後の最初の就業から現在まで、勤め先の企業あるいは就業形態が変わる毎に、段を改めて記載する形になっている。この職歴表と現職情報から、まず離学後の最初の就業状況（＝初職）を整理した（図表1-8）。表にみるとおり、分析対象者全体では、半数強が初職は正社員であったが、アルバイト・パートが18.7%、契約社員・嘱託が5.9%と、非正規雇用から就業を始めた者も多い。

図表1-8 学歴別 初職就業形態（2012年調査） 単位：%、太字は実数

	男性		女性		男女計	
	N	構成比(%)	N	構成比(%)	N	構成比(%)
未就業	559	5.0	550	4.6	1,109	4.8
就業形態不詳	904	8.1	792	6.6	1,696	7.3
役員・自営業主	439	4.0	265	2.2	704	3.0
自家営業の手伝い	241	2.2	93	0.8	334	1.4
自宅での貸仕事(内職)	10	0.1	15	0.1	25	0.1
正規の職員・従業員	6,291	56.7	6,512	53.9	12,803	55.2
アルバイト・パート	1,761	15.9	2,583	21.4	4,344	18.7
派遣社員	190	1.7	175	1.4	365	1.6
契約社員・嘱託	496	4.5	882	7.3	1,378	5.9
その他	203	1.8	217	1.8	420	1.8
合計	11,094	100.0	12,084	100.0	23,178	100.0

この後の職歴については、最大8段目までの記載があり、現職と合わせると職歴の最大は9段となる。この職歴を整理するにあたり、まず就業形態を、正規（正規の職員・従業員）、非正規（アルバイト、パート、派遣社員、契約・嘱託、その他）、自営他（役員・自営業主、

⁸ 離学後最初に就いた仕事には、離学前から継続していた仕事を含む。

自家営業の手伝い、自宅での賃仕事（内職）、就業形態不詳の4つに集約し、その上で、9段目までをこの4分類の組み合わせで表現した。結果、全部で約270通りのパターンができた。この270パターンを初職状況を起点に整理したものが図表1-9の左側であり、さらにこれをまとめて図表1-9の右側の8類型を作成した。これを以下ではキャリア類型と呼ぶことにする。

8類型の内訳は、初職から正社員で同一勤務先に定着している「正社員定着」、初職から正社員で転職はしているがいずれの職も正社員である「正社員転職」、初職は正社員だが現在は非正規雇用である「正社員から非正規」、初職が非正規で、勤務先が変わってもずっと非正規であった「非正規のみ」、初職が非正規か自営他あるいは形態不明で、現在は正社員である「他形態から正社員」、そのほかの移動がある「その他移動型」、さらに現在自営他、または就業形態不明である「現在自営・その他」、現在無業である「現在無業」をそれぞれ別にくくって類型に加えた。このように類型化すると、20歳代の全対象者のキャリアは、「正社員定着」が34.6%、「非正規のみ」が17.7%などとなった。

図表1-9 キャリアの類型化（2012年調査）

		男性 (N)	女性 (N)	男女計 (N)	構成比 (%)		男女計 (N)	構成比 (%)	
初職正社員	正社員定着	4,187	3,832	8,019	34.6	→	正社員定着	8,019	34.6
	正社員間転職	819	569	1,388	6.0	→	正社員間転職	1,388	6.0
	正社員→非正規・自営他→正社員	240	225	465	2.0				
	正社員→非正規	467	993	1,460	6.3	→	正社員から非正規	1,460	6.3
	正社員→自営・その他	303	229	532	2.3				
	正社員→無業	275	664	939	4.1				
初職非正規	非正規のみ	1,620	2,486	4,106	17.7	→	非正規のみ	4,106	17.7
	非正規→正社員	482	418	900	3.9	→	他形態から正社員	983	4.2
	非正規→正社員・自営他→非正規	86	139	225	1.0				
	非正規→自営・その他	167	151	318	1.4				
	非正規→無業	295	663	958	4.1				
初職自営・ 同手伝い、 その他、就 業形態不明	自営・その他(途中移動含む)	1,452	1,043	2,495	10.8	→	現在自営・その他	3,345	14.4
	自営・その他→正規	60	23	83	0.4				
	自営・その他→非正規	48	60	108	0.5				
	自営・その他→無業	34	39	73	0.3				
未就業	559	550	1,109	4.8	→	現在無業	3,079	13.3	
合計	11,094	12,084	23,178	100.0			23,178	100.0	

では、中途退学したかどうかでこのキャリア類型はどう異なるのか。図表1-10にその結果を示した。中退者では、卒業者に比べて明らかに「正社員定着」が少なく、「非正規のみ」や「現在無業」が多い。この傾向は男女とも同じだが、女性のほうがより顕著である。中途退学者は、最初の仕事までに時間がかかりがちだけでなく、長期にわたり非正規や無業状況であることが多いと考えられる。

正社員に移行する「他形態から正社員」は男性の中退者で1割前後見られる。先行研究では、非正規から正規への移行は高学歴者のほうが確率が高いことが指摘されているが、ここではより低い教育段階で中退した人のほうが移行者は多い。この違いは、おそらく離学からの期間が、大学・大学院中退の場合は短いことによるのではないかと考えられる。

そこで、図表1-11の20代後半層に限った集計結果を見ると、男性の「他形態から正社員」はどの学歴段階の中退者でも、年齢計より比率が高まっている。ここから離学からの期間が影響していることが示唆される。

図表1-10 学歴別キャリア類型（2012年調査）

単位：%、太字は実数

	正社員 定着	正社員 間転職	正社員 から非正 規	非正規 のみ	他形態 から正社 員	その他 移動型	現在自 営・その 他	現在無 業	合計(N)	
男性										
中学卒	19.6	4.1	3.0	22.5	6.3	3.7	18.1	22.9	100.0	271
高校卒	39.0	8.9	5.3	11.9	4.2	4.7	17.7	8.3	100.0	4,209
専門・短大・高専卒	36.5	9.2	5.4	13.6	4.7	3.7	18.9	7.9	100.0	2,150
大学・大学院卒	49.2	6.3	2.9	12.0	3.0	1.3	16.2	9.0	100.0	2,933
高校中退	16.7	3.6	1.8	21.7	12.5	4.4	18.1	21.2	100.0	562
専門・短大・高専中退	18.2	2.1	2.1	31.3	11.2	3.3	13.1	18.5	100.0	329
大学・大学院中退	16.3	3.5	2.2	30.8	8.2	2.0	15.5	21.6	100.0	510
合計	37.7	7.4	4.2	14.6	4.9	3.4	17.3	10.5	100.0	11,094
女性										
中学卒	1.8	0.0	1.2	31.7	4.3	0.6	6.1	54.3	100.0	164
高校卒	23.1	4.7	11.4	21.3	3.2	4.7	11.9	19.7	100.0	3,732
専門・短大・高専卒	36.8	5.5	8.2	18.0	3.8	3.2	13.1	11.5	100.0	4,332
大学・大学院卒	46.8	5.4	6.6	14.5	3.5	2.5	11.6	9.1	100.0	2,738
高校中退	3.5	0.0	1.1	44.2	2.8	2.4	7.0	38.9	100.0	457
専門・短大・高専中退	8.4	1.3	4.5	39.5	6.6	5.3	8.2	26.3	100.0	380
大学・大学院中退	15.9	1.6	1.6	40.7	5.5	4.4	8.2	22.0	100.0	182
合計	31.7	4.7	8.2	20.6	3.6	3.5	11.8	15.9	100.0	12,084
男女計										
中学卒	12.9	2.5	2.3	26.0	5.5	2.5	13.6	34.7	100.0	435
高校卒	31.5	6.9	8.1	16.3	3.8	4.7	14.9	13.7	100.0	7,941
専門・短大・高専卒	36.7	6.7	7.3	16.5	4.1	3.4	15.0	10.3	100.0	6,482
大学・大学院卒	48.1	5.8	4.7	13.2	3.3	1.9	14.0	9.0	100.0	5,671
高校中退	10.8	2.0	1.5	31.8	8.1	3.5	13.2	29.1	100.0	1,019
専門・短大・高専中退	13.0	1.7	3.4	35.7	8.7	4.4	10.4	22.7	100.0	709
大学・大学院中退	16.2	3.0	2.0	33.4	7.5	2.6	13.6	21.7	100.0	692
合計	34.6	6.0	6.3	17.7	4.2	3.4	14.4	13.3	100.0	23,178

図表 1-11 学歴別キャリア類型 (25~29 歳 ; 2012 年調査)

単位 : %、太字は実数

	正社員 定着	正社員 間転職	正社員 から非正 規	非正規 のみ	他形態 から正社 員	その他 移動型	現在自 営・その 他	現在無 業	合計(N)		
男 性	中学卒	22.0	4.3	3.7	18.3	8.5	2.4	18.9	22.0	100.0	164
	高校卒	32.6	12.0	6.0	11.2	6.2	6.6	17.8	7.7	100.0	2,164
	専門・短大・高専卒	35.0	11.0	5.6	11.7	5.7	4.4	19.5	7.1	100.0	1,342
	大学・大学院卒	49.5	7.8	3.5	9.9	3.4	1.6	16.4	7.9	100.0	2,151
	高校中退	16.7	3.8	1.8	16.4	15.2	4.1	22.9	19.1	100.0	341
	専門・短大・高専中退	20.1	2.2	2.8	24.6	13.4	3.4	15.6	17.9	100.0	179
	大学・大学院中退	20.3	5.5	2.9	22.5	10.9	2.9	18.0	17.0	100.0	311
合計	36.3	9.2	4.6	12.3	6.2	4.1	17.9	9.4	100.0	6,723	
女 性	中学卒	2.2	0.0	2.2	33.7	4.5	1.1	7.9	48.3	100.0	89
	高校卒	16.8	5.2	12.6	21.3	4.2	5.7	10.5	23.6	100.0	1,978
	専門・短大・高専卒	32.2	6.4	9.5	16.0	4.7	4.3	12.3	14.6	100.0	2,481
	大学・大学院卒	42.9	6.6	8.2	12.6	4.2	3.2	11.4	10.9	100.0	1,906
	高校中退	2.5	0.0	1.8	40.0	2.9	3.6	8.0	41.1	100.0	275
	専門・短大・高専中退	7.2	1.8	5.9	32.9	5.9	7.7	8.1	30.6	100.0	222
	大学・大学院中退	17.8	2.0	2.0	31.7	6.9	6.9	12.9	19.8	100.0	101
合計	28.1	5.5	9.4	18.6	4.5	4.4	11.2	18.3	100.0	7,101	
男 女 計	中学卒	15.0	2.8	3.2	23.7	7.1	2.0	15.0	31.2	100.0	253
	高校卒	25.1	8.7	9.2	16.1	5.3	6.2	14.3	15.3	100.0	4,142
	専門・短大・高専卒	33.2	8.0	8.1	14.5	5.0	4.3	14.8	12.0	100.0	3,823
	大学・大学院卒	46.4	7.2	5.7	11.2	3.8	2.4	14.1	9.3	100.0	4,057
	高校中退	10.4	2.1	1.8	26.9	9.7	3.9	16.2	28.9	100.0	616
	専門・短大・高専中退	13.0	2.0	4.5	29.2	9.2	5.7	11.5	24.9	100.0	401
	大学・大学院中退	19.7	4.6	2.7	24.8	10.0	3.9	16.7	17.7	100.0	412
合計	32.1	7.3	7.1	15.5	5.3	4.3	14.5	14.0	100.0	13,824	

同様に男性の「現在自営・その他」の比率も 20 代後半層に限った集計の方が高い。自営や自家営業の手伝いなどの働き方も離学からの期間が長くなると増えていると思われる。

次の図表 1-12 は、地域によって中途退学後のキャリアが異なるか見たものである。高等教育中退の場合、大都市部で「非正規のみ」の比率が高い。一方、「正社員定着」や「現在自営・その他」は一般市や郡部のほうが比率が高い。大都市と地方では産業・職業構造が異なる。都市部には非正規の雇用機会のほうが多く入職しやすい、あるいは郡部や一般市のほうが地縁・血縁による就業機会が多いという可能性が考えられる。

図表 1-12 中途退学者の居住地域とキャリア類型 (男女計 : 2012 年調査)

単位 : %、太字は実数

	正社員 定着	正社員 間転職	正社員 から非正 規	非正規 のみ	他形態 から正社 員	その他移 動型	現在自 営・その 他	現在無 業	合計		
高校中退	政令指定都市、東京都特別区	8.0	1.1	0.6	31.3	9.1	5.1	15.3	29.5	100.0	176
	上記以外の市	11.1	2.4	1.4	31.3	8.1	3.1	13.2	29.4	100.0	705
	上記以外の郡部	13.0	0.7	2.9	34.8	7.2	3.6	10.1	27.5	100.0	138
	合計	10.8	2.0	1.5	31.8	8.1	3.5	13.2	29.1	100.0	1,019
専門・短 大・高専 中退	政令指定都市、東京都特別区	9.6	2.4	3.2	40.8	9.6	2.4	12.0	20.0	100.0	125
	上記以外の市	13.0	1.4	3.9	34.8	8.5	4.9	9.1	24.3	100.0	485
	上記以外の郡部	17.2	2.0	1.0	33.3	9.1	4.0	15.2	18.2	100.0	99
	合計	13.0	1.7	3.4	35.7	8.7	4.4	10.4	22.7	100.0	709
大学・大学 院中退	政令指定都市、東京都特別区	13.9	2.9	1.7	43.4	5.2	1.7	11.6	19.7	100.0	173
	上記以外の市	17.0	2.8	2.3	30.7	8.5	2.8	13.3	22.7	100.0	436
	上記以外の郡部	16.9	4.8	1.2	26.5	7.2	3.6	19.3	20.5	100.0	83
	合計	16.2	3.0	2.0	33.4	7.5	2.6	13.6	21.7	100.0	692

第5節 現在の就業状況

次に「2012年調査」の調査時点における就業にかかる諸状況について検討する。ここで明らかにできるのは、就業の有無、無業者の就業希望、有業者の就業形態、職業、勤務先企業の規模、また、労働時間、前年の所得などである。

1. 有業・無業状況、失業率、非正規比率

まず、図表1-13で有業・無業の状況をみる。男性の場合、中学卒を除く卒業者では、有業者が9割以上、正社員に限っても5割以上を占める(②の男性・図)。これに対して中退者ではどの教育段階からの中退でも、有業者は8割前後であり、正社員に限れば3割前後と少ない。その分、非正規が多く、高等教育中退者の場合は正社員より非正規の方が多い。また、中退者のうち無業は2割前後だが、その半数は求職活動をしており、残る者も多くが就業を希望している。

女性の場合は、中学卒を除けば卒業者の8～9割が有業で、正社員に限ると3～6割となる(③の女性・図)。一方、中退者では有業者は6～8割、正社員に限れば1～2割にとどまる。いずれも学歴水準が低いほど有業者、正社員は少なく、高校中退の場合の正社員比率は6.3%と著しく低い。中退者に多いのは非正規雇用で、全対象者の半数近くを占める。また、無業で求職活動中の者は1割前後、求職活動はしていない就業希望者も1割前後で、就業を希望していない無業者は少ない。

無業で求職中ないし就業希望を持っている人は、中退者の場合は男女とも2割から2割5分程度おり、卒業者より多い。

図表 1-13 現在の有業・無業の状況

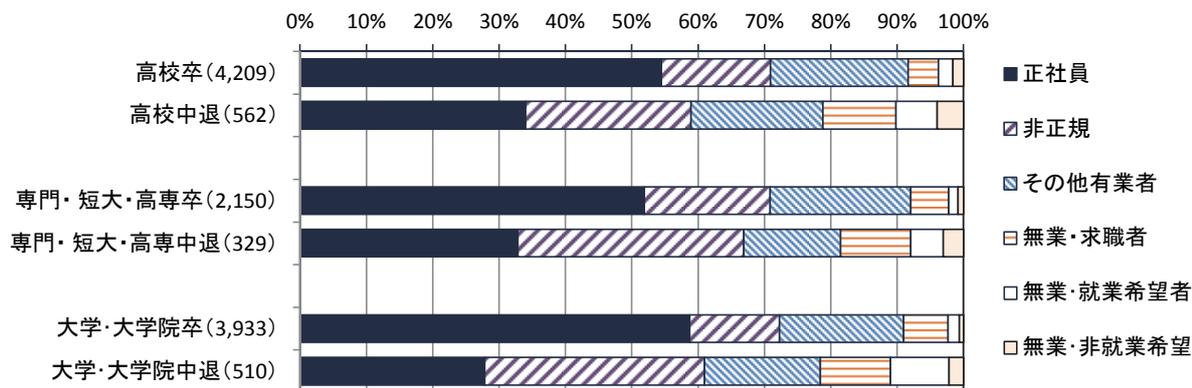
①全体状況

単位：％、太字は実数

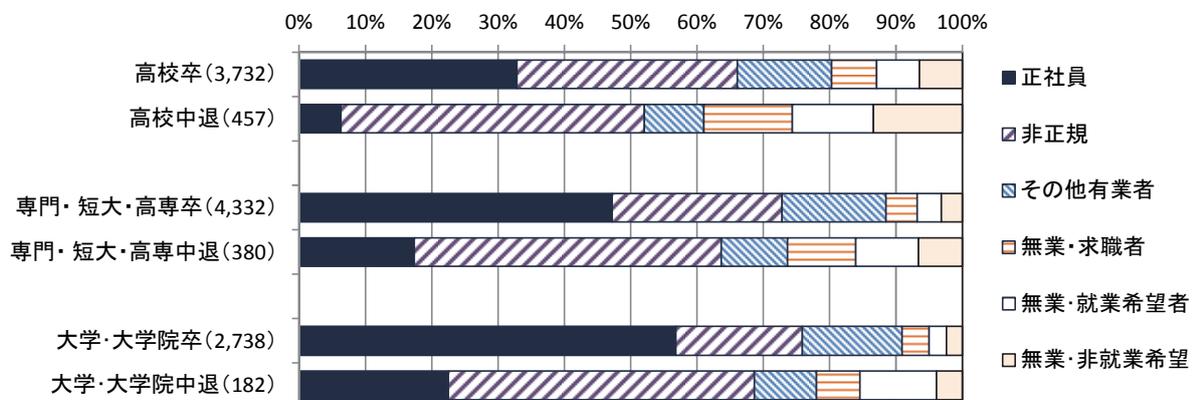
		正社員	非正規	その他有業者	無業・求職者	無業・就業希望者	無業・非就業希望	計(N)		
2012年調査	男性	中学卒	30.3	22.1	24.7	9.2	7.4	6.3	100.0	271
		高校卒	54.5	16.5	20.7	4.6	2.2	1.6	100.0	4,209
		専門・短大・高専卒	51.9	18.9	21.3	5.7	1.4	0.8	100.0	2,150
		大学・大学院卒	58.7	13.5	18.7	6.7	1.7	0.6	100.0	2,933
		高校中退	34.0	24.9	19.9	11.0	6.2	3.9	100.0	562
		専門・短大・高専中退	32.8	34.0	14.6	10.6	4.9	3.0	100.0	329
		大学・大学院中退	27.8	33.1	17.5	10.6	8.8	2.2	100.0	510
		計	51.3	18.1	20.1	6.2	2.6	1.6	100.0	11,094
	女性	中学卒	4.6	32.9	7.3	16.5	22.0	15.9	100.0	164
		高校卒	32.9	33.2	14.2	6.8	6.4	6.4	100.0	3,732
専門・短大・高専卒		47.2	25.6	15.7	4.7	3.6	3.2	100.0	4,332	
大学・大学院卒		56.8	19.1	15.0	4.1	2.6	2.4	100.0	2,738	
高校中退		6.3	45.7	9.0	13.3	12.3	13.3	100.0	457	
専門・短大・高専中退		17.4	46.3	10.0	10.3	9.5	6.6	100.0	380	
大学・大学院中退		22.5	46.2	9.3	6.6	11.5	3.8	100.0	182	
計		41.3	28.3	14.5	5.9	5.1	4.8	100.0	12,084	
男女計	中学卒	20.9	26.2	18.2	12.0	12.9	9.9	100.0	435	
	高校卒	44.3	24.3	17.7	5.6	4.2	3.9	100.0	7,941	
	専門・短大・高専卒	48.8	23.4	17.6	5.1	2.9	2.4	100.0	6,482	
	大学・大学院卒	57.8	16.2	16.9	5.4	2.1	1.5	100.0	5,671	
	高校中退	21.6	34.2	15.0	12.1	8.9	8.1	100.0	1,019	
	専門・短大・高専中退	24.5	40.6	12.1	10.4	7.3	4.9	100.0	709	
	大学・大学院中退	26.4	36.6	15.3	9.5	9.5	2.6	100.0	692	
	計	46.1	23.4	17.2	6.1	3.9	3.3	100.0	23,178	
2003年調査	男性	中学卒	40.9	10.6	27.6	11.0	3.9	5.9	100.0	254
		高校卒	59.1	9.9	23.3	5.0	1.5	1.3	100.0	3,567
		専門・短大・高専卒	62.6	10.7	19.0	6.3	1.0	0.4	100.0	1,903
		大学・大学院卒	69.1	8.5	15.6	5.2	1.0	0.6	100.0	2,585
		高校中退	41.2	15.7	28.6	9.3	2.4	2.7	100.0	451
		専門・短大・高専中退	44.5	15.6	24.2	11.4	2.8	1.4	100.0	211
		大学・大学院中退	40.3	19.8	19.4	11.1	5.9	3.6	100.0	253
		合計	60.2	10.4	20.5	6.0	1.6	1.2	100.0	9,297
	女性	中学卒	4.6	30.5	16.8	12.2	17.6	18.3	100.0	131
		高校卒	25.3	28.5	10.8	8.9	11.3	15.1	100.0	3,596
専門・短大・高専卒		38.1	23.3	11.7	6.4	8.3	12.2	100.0	4,422	
大学・大学院卒		43.7	19.8	13.3	6.3	6.5	10.5	100.0	1,757	
高校中退		10.4	33.8	10.8	13.3	12.9	18.8	100.0	240	
専門・短大・高専中退		17.4	38.3	14.9	7.2	10.2	11.9	100.0	235	
大学・大学院中退		19.2	38.4	12.3	15.1	9.6	5.5	100.0	73	
合計		33.0	25.3	11.8	7.5	9.3	13.1	100.0	10,508	
男女計	中学卒	28.6	17.4	23.9	11.4	8.6	10.1	100.0	385	
	高校卒	42.1	19.2	17.0	7.0	6.4	8.2	100.0	7,163	
	専門・短大・高専卒	45.5	19.5	13.9	6.4	6.1	8.7	100.0	6,325	
	大学・大学院卒	58.8	13.1	14.7	5.6	3.2	4.6	100.0	4,342	
	高校中退	30.5	22.0	22.4	10.7	6.1	8.2	100.0	691	
	専門・短大・高専中退	30.3	27.6	19.3	9.2	6.7	7.0	100.0	446	
	大学・大学院中退	35.6	23.9	17.8	12.0	6.7	4.0	100.0	326	
	合計	45.8	18.3	15.9	6.8	5.7	7.5	100.0	19,805	

* 注：25～29歳に限った集計は章末の付表4に示した。

②男性・図



③女性・図



* 注：図の（ ）内は対象数

次の図表 1-14 は、求職活動中の無業者を失業者と考えると学歴段階ごとの失業率の算出を試みたものである。中段の数字は中退者と同教育段階の卒業者の失業率を比べたもので、男性についてみると、高校中退者は同卒業者の 2.6 倍、専門・短大・高専中退者は同卒業者の 2 倍、大学・大学院中退者は同卒業者の 1.7 倍の失業率となっている。ここからわかるのは、中退は失業のリスクを高めること、さらに、なかでも低い教育段階での中退は、失業へのリスクをより高めるということである。

女性についても同様に中段を見ていくと、高校中退者は同卒業者の 2.3 倍、専門・短大・高専中退者は同卒業者の 2.4 倍、大学・大学院中退者は同卒業者の 1.8 倍の失業率となっている。男性とほぼ同じ構造である。

図表 1-14 失業率*の中退者と卒業者の比較

① 2012年調査

	全年齢(20~29歳)			25-29歳		
	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計
失業率*						
中学卒	10.7	26.5	15.5	10.5	19.3	13.0
高校卒	4.7	7.8	6.1	4.1	8.5	6.1
専門・短大・高専卒	5.8	5.1	5.3	5.0	5.4	5.3
大学・大学院卒	6.8	4.3	5.6	5.9	4.5	5.3
高校中退	12.3	17.9	14.6	11.3	17.3	13.6
専門・短大・高専中退	11.6	12.2	11.9	9.3	14.4	12.0
大学・大学院中退	11.9	7.8	10.9	8.5	5.8	7.9
計	6.5	6.6	6.6	5.7	6.8	6.2
中退者/卒業者 : 高校	2.6	2.3	2.4	2.8	2.0	2.2
中退者/卒業者 : 専門・短大・高専	2.0	2.4	2.2	1.9	2.7	2.3
中退者/卒業者 : 大学・大学院	1.7	1.8	1.9	1.4	1.3	1.5
「就業者+無業求職者」(N)						
中学卒	234	102	336	143	57	200
高校卒	4,051	3,252	7,303	2,083	1,652	3,735
専門・短大・高専卒	2,103	4,040	6,143	1,312	2,241	3,553
大学・大学院卒	2,865	2,602	5,467	2,107	1,779	3,886
高校中退	505	340	845	311	196	507
専門・短大・高専中退	303	319	622	162	180	342
大学・大学院中退	454	154	608	282	86	368
計	10,624	10,886	21,510	6,459	6,228	12,687

② 2003年調査

	全年齢(21~35歳)			25-29歳		
	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計
失業率*						
中学卒	12.2	19.0	14.1	7.1	-	7.4
高校卒	5.2	12.1	8.2	5.7	12.0	8.3
専門・短大・高専卒	6.4	8.0	7.5	7.5	6.0	6.5
大学・大学院卒	5.3	7.5	6.1	6.1	7.9	6.8
高校中退	9.8	19.5	12.5	8.9	23.4	12.9
専門・短大・高専中退	11.9	9.3	10.6	9.5	9.2	9.4
大学・大学院中退	12.2	17.7	13.4	6.9	-	11.9
計	6.2	9.7	7.9	6.5	8.7	7.5
中退者/卒業者 : 高校	1.9	1.6	1.5	1.6	2.0	1.6
中退者/卒業者 : 専門・短大・高専	1.9	1.2	1.4	1.3	1.5	1.4
中退者/卒業者 : 大学・大学院	2.3	2.4	2.2	1.1	-	1.7
「就業者+無業求職者」(N)						
中学卒	229	84	313	70	24	94
高校卒	3,469	2,645	6,114	1,089	786	1,875
専門・短大・高専卒	1,876	3,516	5,392	684	1,210	1,894
大学・大学院卒	2,543	1,459	4,002	920	633	1,553
高校中退	428	164	592	123	47	170
専門・短大・高専中退	202	183	385	84	65	149
大学・大学院中退	229	62	291	87	22	109
計	9,035	8,154	17,189	3,070	2,798	5,868

注：*失業率は (無業求職者) / (就業者+無業求職者) ×100 とした。

表の中段は、対応する教育段階ごとに、中退者の失業率を卒業者の失業率で除して求めた比。

さて、図表 1-13①の表の下段には「2003年調査」での有業・無業の状況を示した。これと「2012年調査」を比較して、この10年ほどの間の変化を考える。まず、全体として無業者の減少、非正規雇用の増加という方向の変化がみられる。その中で、女性では就業希望のない無業者(≒専業主婦)の減少が大きく、非正規雇用ばかりでなく正社員も増えている。

一方男性では正社員比率が低下して非正規雇用比率が上昇している。こうした変化を学歴段階別にみていくと、卒業者に対して中退者の変化の幅の方が大きいようである。

この変化をより端的にとらえるために、先にみた学歴段階別の失業率を取り上げ、さらに、同様に学歴段階別の非正規比率を算出して、2時点間の比較を試みる。その際、「2012年調査」の対象が20～29歳であるのに対して、「2003年調査」の対象は21～35歳とより高い年齢層を含んでいることに留意が必要である。失業率にしろ非正規雇用率にしろ、年齢による違いは小さくないので、単純な比較ではこの年齢幅の違いの影響で、時代の変化がつかめない可能性がある。そこで、対象者の年齢を同一（25～29歳）にそろえた比較も必要である。ただし、「2003年調査」における大学・大学院中退女性のケースは少なく、検討できない部分もでてくると思われる。

まず失業率について「2003年調査」と比較する。図表1-14②に「2003年調査」から算出した学歴段階別の失業率を示した。まず、全年齢のデータを見ると、どの教育段階でも中退者の失業率は卒業者のそれに比べて相当に高く、このことは「2012年調査」とまったく変わらない。異なる点は、中段にある卒業者との比の値が、2003年では高校中退より大学・大学院中退のほうが大きくなっていることである。2012年とは逆の傾向で、かつては高い教育段階での中退の方が失業のリスクへの影響度が大きかったのだろうか。

これを年齢段階を25～29歳にそろえたデータで比較する。女性の大学・大学院中退は特にケースが少ないので除外して考えることにして、男性に注目すると、こちらは高い教育段階の中退者のほうが卒業者との差が小さくなっており、2012年と同じ傾向であった。10年ほど前も、現在と同じように、低い教育段階での中退の方がより大きく失業リスクを高める傾向があるといえよう。男性について、さらに、比の値に注目すれば、現在の方がさらに低い教育段階での中退のマイナスは拡大しているといえる。

次に非正規雇用への影響を見る。図表1-15は、雇用者に占める非正規雇用の比率を学歴段階別に見たものである。男女とも中退者は卒業者より非正規比率が高いことはすでにみたが、ここでは中段に示した、中退者の非正規比率と卒業者のそれとの比の値に注目したい。2012年の全年齢（20～29歳）をみると、1.7倍から2.7倍の幅で、男女とも高い教育段階ほど比の値は大きい。高い教育段階での中退のほうが、より非正規雇用になるリスク（＝卒業していれば得られた正社員の雇用機会を逸してしまうリスク）が高いということである。

図表 1-15 雇用者中に占める非正規雇用の比率

①2012年調査

	全年齢(20~29歳)			25~29歳			
	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計	
雇用者中の非正規比率*	中学卒	47.4	85.9	58.6	38.9	86.8	52.6
	高校卒	24.9	51.0	36.6	25.3	55.8	38.9
	専門・短大・高専卒	27.5	36.4	33.5	25.5	37.1	33.1
	大学・大学院卒	20.5	27.3	23.9	18.3	27.7	22.7
	高校中退	43.0	88.0	61.8	34.0	89.1	56.9
	専門・短大・高専中退	51.4	72.7	62.5	41.9	71.0	57.3
	大学・大学院中退	55.2	67.5	58.7	43.2	61.2	47.7
	計	27.6	41.9	35.1	24.9	42.4	33.8
	中退者/卒業生 : 高校	1.7	1.7	1.7	1.3	1.6	1.5
中退者/卒業生 : 専門・短大・高専	1.9	2.0	1.9	1.6	1.9	1.7	
中退者/卒業生 : 大学・大学院	2.7	2.5	2.5	2.4	2.2	2.1	
雇用者(N)	中学卒	156	64	220	95	38	133
	高校卒	3,052	2,503	5,555	1,576	1,277	2,853
	専門・短大・高専卒	1,540	3,215	4,755	960	1,775	2,735
	大学・大学院卒	2,168	2,140	4,308	1,605	1,455	3,060
	高校中退	335	241	576	194	138	332
	専門・短大・高専中退	222	242	464	117	131	248
	大学・大学院中退	317	126	443	199	67	266
	計	7,868	8,590	16,458	4,788	4,908	9,696

②2003年調査

	全年齢(21~35歳)			25~29歳			
	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計	
雇用者中の非正規比率*	中学卒	26.8	87.8	42.4	39.5	-	53.2
	高校卒	15.9	53.5	32.4	16.1	50.6	31.1
	専門・短大・高専卒	15.1	38.9	30.9	17.9	35.1	29.2
	大学・大学院卒	12.2	34.1	20.2	16.2	33.1	23.1
	高校中退	30.6	77.1	44.0	26.7	75.0	39.8
	専門・短大・高専中退	27.7	69.6	49.1	19.3	67.3	42.2
	大学・大学院中退	34.2	66.7	41.1	40.4	-	44.9
	計	16.2	44.6	29.9	18.1	40.9	29.3
	中退者/卒業生 : 高校	1.9	1.4	1.4	1.7	1.5	1.3
中退者/卒業生 : 専門・短大・高専	1.8	1.8	1.6	1.1	1.9	1.4	
中退者/卒業生 : 大学・大学院	2.8	2.0	2.0	2.5	-	1.9	
雇用者(N)	中学卒	142	49	191	43	19	62
	高校卒	2,505	1,960	4,465	796	613	1,409
	専門・短大・高専卒	1,404	2,760	4,164	521	993	1,514
	大学・大学院卒	2,034	1,164	3,198	746	510	1,256
	高校中退	268	109	377	86	32	118
	専門・短大・高専中退	130	135	265	57	52	109
	大学・大学院中退	155	42	197	57	12	69
	計	6,682	6,252	12,934	2,317	2,240	4,557

注：非正規雇用は、アルバイト・パート、労働者派遣事業所の派遣社員、契約社員・嘱託、その他。雇用者はこれに正社員を加えたものである。

2003年からの変化の検討は、非正規雇用率は年齢段階でかなり異なるので、25~29歳層と年齢をそろえたデータのほうに注目したほうがいい。この10年ほどの変化として、全体として非正規比率が高まっていることは周知のとおりだが、本データにおいてもその上昇は確

認できる。失業率と同様、中段の比の値に注目すると、2012年調査も2003年調査も、ほぼ同じ傾向で大学・大学院卒の値が高い。高い学歴段階の中退ほど非正規雇用リスクが高いという傾向は変わらないということである。

次に、無業で就業を希望している場合および求職活動をしている場合、どの様な就業形態での仕事を希望しているのかをみる。図表1-16に示す通り、男性では正社員を希望する者が6～7割で非正規希望は1～2割、女性では正社員希望が2～3割で非正規希望が5割強であり、いずれも学歴段階が高いほうが正社員を希望する比率は高くなっている。卒業者と比べると中退者では、男性の場合は全般にやや正社員希望率が低く、女性の場合は明らかに中退者のほうが正社員希望率は低い。大学・大学院卒女性の正社員希望率は女性では特に高く、中退者との差が際立っている。

また、付表5①に示した就業者の就業形態の構成と比べると、希望する形態は全体として男性はより正社員希望に偏り、女性はアルバイト・パートに偏る傾向があるのだが、中退者に限れば、男性の正社員希望者はさらに多く、また女性でも現実以上に正社員希望に偏っていた。中退者の場合、正社員希望があってもなかなか叶えられず、求職を続けているのではないかと推察される。

図表1-16 就業希望の無業者（求職活動中を含む）の希望する就業形態（2012年調査）

単位：％、太字は実数

	会社などの 役員・自営 業主	自家営業 手伝い、内 職	正規の職 員・従業員	アルバイ ト・パート	派遣・契 約・嘱託	その他	不詳	合計(N)		
男 性	中学卒	13.3	4.4	31.1	35.6	2.2	11.1	2.2	100.0	45
	高校卒	6.7	1.8	64.1	15.5	1.5	9.1	1.2	100.0	329
	専門・短大・高専卒	7.0	0.0	77.8	10.1	1.3	3.2	0.6	100.0	158
	大学・大学院卒	6.5	0.8	79.2	5.4	1.5	5.8	0.8	100.0	260
	高校中退	4.1	2.1	56.7	20.6	1.0	13.4	2.1	100.0	97
	専門・短大・高専中退	3.8	1.9	71.2	15.4	0.0	5.8	1.9	100.0	52
	大学・大学院中退	4.0	2.0	64.4	17.8	1.0	9.9	1.0	100.0	101
	合計	6.3	1.5	68.2	13.8	1.4	7.7	1.1	100.0	1,052
女 性	中学卒	1.6	14.1	12.5	62.5	3.1	3.1	3.1	100.0	64
	高校卒	1.1	5.0	37.7	50.2	1.7	2.9	1.3	100.0	522
	専門・短大・高専卒	2.5	3.6	47.3	41.8	1.6	2.7	0.5	100.0	366
	大学・大学院卒	1.6	3.7	60.8	25.9	5.3	2.6	0.0	100.0	189
	高校中退	1.7	14.5	23.1	54.7	2.6	1.7	1.7	100.0	117
	専門・短大・高専中退	0.0	8.0	32.0	53.3	2.7	4.0	0.0	100.0	75
	大学・大学院中退	0.0	2.9	32.4	55.9	2.9	2.9	2.9	100.0	34
	合計	1.5	5.8	40.6	45.9	2.4	2.8	1.0	100.0	1,381
男 女 計	中学卒	6.4	10.1	20.2	51.4	2.8	6.4	2.8	100.0	109
	高校卒	3.3	3.8	47.9	36.8	1.6	5.3	1.3	100.0	851
	専門・短大・高専卒	3.8	2.5	56.5	32.3	1.5	2.9	0.6	100.0	524
	大学・大学院卒	4.5	2.0	71.5	14.0	3.1	4.5	0.4	100.0	449
	高校中退	2.8	8.9	38.3	39.3	1.9	7.0	1.9	100.0	214
	専門・短大・高専中退	1.6	5.5	48.0	37.8	1.6	4.7	0.8	100.0	127
	大学・大学院中退	3.0	2.2	56.3	27.4	1.5	8.1	1.5	100.0	135
	合計	3.6	3.9	52.5	32.0	2.0	4.9	1.1	100.0	2,433

2. 従業職種・勤務先規模

次に有業者について、勤務先企業の規模および従業職種をみる。勤務先企業規模は（図表1-17）、中学卒を除いて全般に卒業生のほうが大きい。中退者の中でも、中退した教育段階が高いほうが企業規模は大きい傾向があり、大学・大学院中退では、男女とも1割以上が1,000人以上規模に勤務している。ただし、同規模で働いているといっても就業形態が異なる。図表1-18では、勤務先を企業規模で分けたうえで、そこで正社員である比率を中退者と卒業者に分けて示した。細分したため対象数が小さくなっており、結果の解釈は注意が必要だが、いずれの教育段階・企業規模においても、卒業者に比べて中退者の正社員比率は低く、とりわけ大企業・官公庁の場合の差が大きいことは指摘できよう。大企業でかつ正社員というケースは大変少なくなる。

図表1-17 勤務先企業の従業員規模（2012年調査）

単位：％、太字は実数

	1～4人	5～29人	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上	官公庁	不詳	合計		
男性	中学卒	20.6	34.4	14.4	7.2	4.3	8.6	0.0	10.5	100.0	209
	高校卒	7.4	19.6	16.6	15.4	11.4	14.6	0.9	14.1	100.0	3,859
	専門・短大・高専卒	7.5	22.2	17.3	15.3	10.8	9.5	1.8	15.6	100.0	1,980
	大学・大学院卒	4.0	12.1	14.2	14.1	14.7	21.7	6.1	13.1	100.0	2,669
	高校中退	18.7	39.7	10.4	9.9	5.9	4.3	0.2	10.8	100.0	443
	専門・短大・高専中退	8.2	35.1	17.9	9.7	6.7	9.3	2.6	10.4	100.0	268
	大学・大学院中退	8.0	28.3	17.0	12.3	7.5	11.5	1.8	13.8	100.0	400
	合計	7.4	20.1	15.9	14.3	11.4	14.5	2.5	13.8	100.0	9,931
女性	中学卒	10.7	44.0	13.3	6.7	4.0	13.3	0.0	8.0	100.0	75
	高校卒	5.2	24.1	18.6	16.8	11.0	9.9	0.6	13.8	100.0	2,997
	専門・短大・高専卒	6.5	27.7	16.0	12.7	12.8	9.4	1.8	13.0	100.0	3,835
	大学・大学院卒	2.9	12.3	14.5	13.1	14.8	23.5	6.3	12.6	100.0	2,490
	高校中退	9.7	45.2	11.5	9.3	3.6	9.3	0.4	11.1	100.0	279
	専門・短大・高専中退	7.1	31.1	17.1	13.6	10.7	8.2	0.4	11.8	100.0	280
	大学・大学院中退	7.7	26.1	12.7	17.6	9.2	13.4	2.1	11.3	100.0	142
	合計	5.4	23.6	16.3	14.0	12.3	13.1	2.4	13.0	100.0	10,168
男女計	中学卒	18.0	37.0	14.1	7.0	4.2	9.9	0.0	9.9	100.0	284
	高校卒	6.4	21.6	17.5	16.0	11.2	12.5	0.7	14.0	100.0	6,856
	専門・短大・高専卒	6.9	25.8	16.5	13.6	12.1	9.5	1.8	13.9	100.0	5,815
	大学・大学院卒	3.4	12.2	14.4	13.6	14.8	22.6	6.2	12.9	100.0	5,159
	高校中退	15.2	41.8	10.8	9.7	5.0	6.2	0.3	10.9	100.0	722
	専門・短大・高専中退	7.7	33.0	17.5	11.7	8.8	8.8	1.5	11.1	100.0	548
	大学・大学院中退	7.9	27.7	15.9	13.7	7.9	12.0	1.8	13.1	100.0	542
	合計	6.4	21.9	16.1	14.1	11.9	13.8	2.5	13.4	100.0	20,099

図表 1-18 学歴勤務先規模別 正社員比率 (2012年調査)

単位：%、太字は実数

教育段階	勤務先規模	男性				女性			
		卒業者		中退者		卒業者		中退者	
		正社員比率	就業者数(N)	正社員比率	就業者数(N)	正社員比率	就業者数(N)	正社員比率	就業者数(N)
高校段階	1~29人	52.0	1,044	45.9	259	35.2	877	7.8	153
	30~299人	72.9	1,237	48.9	90	53.7	1,059	24.1	58
	300~999人	76.7	438	50.0	26	53.2	331	10.0	10
	1000人以上,官公庁	75.1	595	65.0	20	48.3	315	3.7	27
	合計	59.4	3,859	43.1	443	40.9	2,997	10.4	279
専門・短大・高専段階	1~29人	52.4	588	42.2	116	56.7	1,315	21.5	107
	30~299人	72.4	645	45.9	74	63.1	1,102	33.7	86
	300~999人	75.6	213	55.6	18	71.4	490	30.0	30
	1000人以上,官公庁	65.3	225	37.5	32	50.1	431	8.3	24
	合計	56.4	1,980	40.3	268	53.3	3,835	23.6	280
大学・大学院段階	1~29人	44.9	428	33.8	145	54.1	377	29.2	48
	30~299人	74.2	756	47.0	117	68.3	688	37.2	43
	300~999人	80.2	393	40.0	30	80.2	369	30.8	13
	1000人以上,官公庁	83.0	742	41.5	53	74.2	743	18.2	22
	合計	64.6	2,669	35.5	400	62.5	2,490	28.9	142

注：規模不詳は掲載を省いた。

職種については(図表1-19)、女性中退者の場合は、その5~6割がサービス職か販売職に就いている。大学・大学院卒では約6割が事務職か専門技術職に就いているが中退者で同職種に就く者はその半分に満たない。男性の場合は、全般により広い分野の職種に就いているため、中退者と卒業者との差異は女性ほど明確ではないが、高等教育段階では、中退者の方がサービス職に、卒業者の方が専門技術職、高校段階では中退者は輸送用機械の運転などに、卒業者は生産工程職などにやや多い。

図表 1-19 従業職種 (2012年調査)

単位：%、太字は実数

	専門的・技術的な仕事	事務の仕事	販売の仕事	サービスの仕事	生産工程の仕事	輸送・機械運転・建設・採掘	運搬・清掃・包装等	その他の仕事	不詳	合計(N)
中学卒	16.3	0.5	5.7	8.1	15.3	27.8	3.8	12.4	10.0	209
高校卒	18.2	1.6	6.1	12.8	24.9	10.6	3.1	9.7	13.0	3,859
専門・短大・高専卒	30.7	4.4	6.7	18.5	9.5	5.6	2.3	9.0	13.4	1,980
男性 大学・大学院卒	26.4	11.2	13.3	14.6	5.5	2.9	1.3	12.7	12.0	2,669
男性 高校中退	12.2	0.2	7.2	16.7	12.0	24.4	4.3	13.1	9.9	443
男性 専門・短大・高専中退	12.7	4.1	12.3	20.9	12.3	10.8	4.1	13.8	9.0	268
男性 大学・大学院中退	13.3	4.3	17.3	24.8	8.3	5.5	5.3	9.5	12.0	400
男性 合計	22.2	4.8	8.8	15.2	14.7	8.3	2.6	10.8	12.5	9,931
中学卒	6.7	5.3	20.0	40.0	8.0	0.0	6.7	9.3	4.0	75
高校卒	9.7	18.4	15.8	23.4	12.4	0.4	1.4	6.4	12.1	2,997
専門・短大・高専卒	38.1	16.2	8.7	17.0	2.6	0.2	0.4	5.1	11.7	3,835
女性 大学・大学院卒	27.4	31.0	9.5	12.7	1.2	0.4	0.0	7.2	10.6	2,490
女性 高校中退	5.7	4.7	16.5	40.5	9.3	1.4	2.9	8.6	10.4	279
女性 専門・短大・高専中退	11.4	12.5	19.6	30.0	6.4	0.7	1.4	8.6	9.3	280
女性 大学・大学院中退	9.9	16.2	16.9	36.6	4.9	0.0	2.8	5.6	7.0	142
女性 合計	24.7	19.9	11.7	19.3	5.5	0.4	0.8	6.3	11.3	10,168
男女計 中学卒	13.7	1.8	9.5	16.5	13.4	20.4	4.6	11.6	8.5	284
男女計 高校卒	14.5	8.9	10.3	17.4	19.4	6.1	2.3	8.3	12.6	6,856
男女計 専門・短大・高専卒	35.5	12.2	8.0	17.5	5.0	2.0	1.0	6.4	12.3	5,815
男女計 大学・大学院卒	26.9	20.8	11.5	13.7	3.4	1.7	0.7	10.1	11.3	5,159
男女計 高校中退	9.7	1.9	10.8	25.9	10.9	15.5	3.7	11.4	10.1	722
男女計 専門・短大・高専中退	12.0	8.4	16.1	25.5	9.3	5.7	2.7	11.1	9.1	548
男女計 大学・大学院中退	12.4	7.4	17.2	27.9	7.4	4.1	4.6	8.5	10.7	542
男女計 合計	23.5	12.5	10.3	17.3	10.1	4.3	1.7	8.5	11.9	20,099

3. 所得、労働時間、時間当たり収入

所得と労働時間についても調査から情報が得られる。ここではさらに、これを組み合わせ時間当たりの収入についても検討する。所得については、前年の所得がわかるがこれは勤労所得とその他所得の合算値である⁹。また、労働時間は現在のふだんの1週間の労働時間で残業を含む。時間当たり収入をこれから推計するが、所得が勤労所得のみではなく、また、所得と労働時間の計測時期が異なるので、参考値程度のものである。ただし、より正確を期するために、時間当たり収入は、前年から継続して同一の企業・就業形態である者だけについて推計した。

また、全年齢（20～29歳）の対象者についての推計のほか、男性については、2つの年齢段階に分けた推計も行い、「2003年調査」の同一年齢段階の者との比較を行った。卒業者と中退者の間の差が拡大したのか縮小したのかを検討するためである。（女性については、比較対象とする「2003年調査」での大学・大学院中退者数が特に少なかったため、年齢段階をそろえての比較は断念した。）

その結果が図表1-20である。まず男性の全年齢（20～29歳）をみると、前年の平均年収は、高校中退者は同卒業者より約28万円低く、専門・短大・高専中退は同卒業者より約47万、大学中退者は同卒業者より約90万円低い。労働時間は高校卒と中退はほぼ同じ、他はやや中退者の方が短い。これらから時間当たり収入を推計し、卒業者に対する中退者の比を取ったのが最右欄の数字である。大学・大学院中退者の時間当たり収入は同卒業者のその74%にとどまるということで、高い学歴段階で退学するほどその収入への影響は大きいといえる。

次に年齢段階別をみる。年齢段階を分けることで、大学・大学院卒は20歳代前半には少ないというバランスの悪いサンプル構成の影響を軽減できる。最右欄の卒業者に対する中退者の時間当たり収入の比に注目すると、2つに分けてもその比の値はそれほど変わらず、大学・大学院中退の時間当たり収入は卒業者の76～77%となっている。

さらにこれを、最下段の「2003年調査」結果と比べると、当時の大学・大学院卒に対する同中退者の時間当たり収入の比は69であり、また、高卒に対する同中退者の場合は82であった。この間、収入についての格差は少し縮まっている可能性がある。ただし、専門・短大・高専ではやや開いており、全体に差が縮小しているわけではない。

次に女性についてみよう。前年の平均年収は、高校中退者は同卒業者より約40万円低く、専門・短大・高専中退は同卒業者より約62万、大学中退者は同卒業者より約84万円低い。労働時間はどの学歴でも中退者は短い。女性の中退者には非正規雇用が非常に多いことはすでにみたが、非正規の短時間雇用者が多いということであろう。時間当たり収入にしてみると、卒業者に対する比は、93、87、77と男性の場合とあまり変わらない。

⁹ 2003年調査は勤労所得が分離されているので、勤労所得を用いている。

「2003年調査」との比較は、女性については、年齢幅が違う層との比較になってしまうので詳しく見ても意味はないが、ただ、時間当たり収入の卒業者に対する比が、高校レベルでは大きな差（68）、大学レベルでは小さな差（94）と、2012年とは逆になっていることは気にかかる。すなわち、この10年程度の変化ととらえると、大学レベルでは小さかった差が大きくなり、高校レベルでは大きかった差が小さくなった。この間、女性の間で賃金の学歴間格差が拡大したことが指摘されているが、このことがこの変化の理由だと考えると腑に落ちる。つまり、大卒女性の賃金上昇は中退女性との差を広げ、一方、高卒女性の賃金は相対的に低下して高校中退の女性との差が縮まったという解釈である。詳しい分析に耐えるデータではないので、可能性の一つの提示にとどめる。

図表 1-20 所得、労働時間、時間あたり収入

① 男性

a. 2012年（20～29歳）

	前年の所得(現在有業の者のみ)		週労働時間		時間あたり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間あたり収入
	(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)	
中学卒	198.6	135	43.2	198	902	105	
高校卒	244.1	2,988	43.7	3,702	1,170	2,623	
専門・短大・高専卒	234.2	1,485	44.5	1,900	1,129	1,234	
大学・大学院卒	273.9	2,061	44.8	2,594	1,340	1,744	
高校中退	216.1	332	43.6	421	1,051	267	90
専門・短大・高専中退	187.6	203	41.1	259	973	158	86
大学・大学院中退	183.9	302	40.1	389	995	233	74

b. 2003年（21～35歳）

	前年の年収(現在有業の者のみ)		週労働時間		時間あたり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間あたり収入
	(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)	
中学卒	277.9	130	43.0	178	1,705	104	
高校卒	323.9	2,658	45.5	2,992	1,594	2,243	
専門・短大・高専卒	317.1	1,484	46.6	1,609	1,517	1,250	
大学・大学院卒	379.9	2,136	45.9	2,260	1,911	1,792	
高校中退	284.6	304	48.2	353	1,370	240	86
専門・短大・高専中退	274.2	137	44.1	165	1,504	115	99
大学・大学院中退	262.8	172	43.7	182	1,255	130	66

c. 年齢段階別（2012年、2003年）

		前年の所得(現在有業の者のみ)		週労働時間		時間当たり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間当たり収入	
		(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)		
2012年	20～24歳	中学卒	177.1	47	42.6	80	821	40	
		高校卒	227.7	1,447	42.5	1,778	1,120	1,253	
		専門・短大・高専卒	198.3	506	43.5	704	999	381	
		大学・大学院卒	189.0	440	43.0	665	1,078	284	
		高校中退	181.4	119	41.2	160	978	87	87
		専門・短大・高専中退	152.3	83	38.7	115	927	56	93
	大学・大学院中退	121.6	94	34.8	141	826	65	77	
	25～29歳	中学卒	209.9	88	43.7	118	977	65	
		高校卒	260.1	1,541	44.8	1,924	1,219	1,370	
		専門・短大・高専卒	253.5	979	45.2	1,196	1,186	853	
		大学・大学院卒	297.6	1,621	45.4	1,929	1,393	1,460	
		高校中退	235.2	213	45.1	261	1,085	180	89
専門・短大・高専中退		212.1	120	43.2	144	1,021	102	86	
大学・大学院中退	212.7	208	43.1	248	1,061	168	76		
2003年	25～29歳	中学卒	223.3	41	41.5	59	1,565	30	
		高校卒	291.8	813	45.6	933	1,353	685	
		専門・短大・高専卒	286.7	545	46.4	588	1,426	457	
		大学・大学院卒	312.7	773	45.3	811	1,597	637	
		高校中退	267.6	86	49.5	102	1,110	67	82
		専門・短大・高専中退	268.3	56	46.1	71	1,268	46	89
大学・大学院中退	237.6	71	44.5	74	1,097	53	69		

②女性

a. 2012年（20～29歳）

	前年の所得(現在有業の者のみ)		週労働時間		時間当たり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間当たり収入
	(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)	
中学卒	136.9	57	33.6	67	782	46	
高校卒	166.2	2,453	37.6	2,837	906	2,029	
専門・短大・高専卒	201.7	3,213	41.9	3,683	1,020	2,625	
大学・大学院卒	235.7	2,203	42.3	2,441	1,209	1,776	
高校中退	126.0	220	30.8	263	841	167	93
専門・短大・高専中退	139.5	229	35.3	266	888	163	87
大学・大学院中退	151.8	123	36.6	137	935	88	77

b. 2003年（21～35歳）

	前年の所得(現在有業の者のみ)		週労働時間		時間当たり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間当たり収入
	(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)	
中学卒	92.6	44	29.1	55	700	34	
高校卒	171.8	1,844	34.3	2,114	1,134	1,473	
専門・短大・高専卒	213.8	2,691	37.8	2,937	1,268	2,107	
大学・大学院卒	255.9	1,145	39.3	1,236	1,559	853	
高校中退	127.0	91	31.5	116	768	65	68
専門・短大・高専中退	147.7	131	34.1	147	1,084	86	85
大学・大学院中退	136.0	41	32.6	46	-	24	-

注：対象は現在有業の者のみで、上下5%を除く平均値。

* 2012年調査は前年所得は勤労所得（税込）とその他の所得の合計、2003年調査は勤労所得（税込）。前年の年収なしの者を除いて集計した。2003年については、家族と合算のデータしかない場合も除いた。

* 週労働時間はふだんの1週間の就業時間、残業を含む。

* 時間当たり収入は、(前年の所得/週就業時間×50週)。前年所得があり、かつ現職入職時期が前年以前の者のみを集計した。

第6節 家族と健康

この節では、家族形成の状況と健康についてとりあげる。本調査から得られるのは、家族については、現在の同居家族の構成、結婚の有無、子どもの有無、子どもの年齢である。健康に関しては、最近1年間の通院、及び入院経験の有無である。

まず、家族の状況を図表1-21に示す。男女とも3分の2は独身で親と同居している。独身で親元を離れている人が男性では2割、女性では1割強いる。結婚して新たな家族を形成している人は男性で15%、女性で18%と少ない。対象者は20～29歳であり、新たな家族の形成はこれからの人の方が多いということである。既婚の場合は、7割以上の人に子どもがいる。

中退者の特徴として、まず、高校中退者の場合は結婚して子どものいる率が卒業者より多く、とりわけ女性では子どもがいる人が多い。大学の場合も、卒業者よりは子どものいる率が高い。さらに配偶者なしで子どものいるケース（＝シングルマザーなど）については、高校中退女性では14%と特に多いが、どの学歴でも中退者の方がこの比率は高い。

これは、中途退学が家族形成に及ぼす影響というより、むしろ在学中の妊娠や出産が中途退学につながる要因となっているということなのだろうか。そこで、次の図表1-22では、第1子出生年が離学年より前であるか、同じ年である者の比率を見た。対象者全体に対して、男性は0.7%、女性では1.2%とごくわずかだが、中退者に限れば、女性の場合には3～4%と多くなる。在学中の妊娠や出産が中退の背後にある一要因であることは確かであろう。ただし、調査時点で子どもを持つ人のうちの離学年までに第1子を持った人の割合(表の左側)の方に注目すると、有子率が高い高校中退女性においてもこれが高いわけではなく、中退年以降に出産した人が9割近くを占めるということである。むしろ高校中退者女性が同卒業女性より若い年齢で家族形成を行うことが多いと理解したほうがいい。なお、大学・大学院中退者女性の場合、離学年までの出産が3割と比較的多い。高校中退女性より離学年齢が高いことから来る違いではないかと思われる。

図表 1-21 家族の状況 (2012年調査)

単位：%、太字は実数

		独身親同居	独身非親同居	有配偶・子どもなし	有配偶・子ども有	無配偶・子ども有	合計	
男性	中学卒	52.4	19.2	6.6	18.5	3.3	100.0	271
	高校卒	63.4	19.0	5.2	12.0	0.5	100.0	4,209
	専門・短大・高専卒	66.0	19.1	5.3	9.3	0.4	100.0	2,150
	大学・大学院卒	65.3	24.6	4.8	5.2	0.1	100.0	2,933
	高校中退	55.3	19.6	5.2	18.3	1.6	100.0	562
	専門・短大・高専中退	68.4	19.5	2.1	9.1	0.9	100.0	329
	大学・大学院中退	71.8	18.6	2.9	6.1	0.6	100.0	510
	計	64.3	20.5	4.9	9.8	0.5	100.0	11,094
女性	中学卒	49.4	14.6	4.9	22.6	8.5	100.0	164
	高校卒	60.3	12.0	4.4	20.0	3.3	100.0	3,732
	専門・短大・高専卒	69.6	13.9	3.6	11.8	1.1	100.0	4,332
	大学・大学院卒	75.3	14.6	4.1	5.7	0.2	100.0	2,738
	高校中退	40.0	10.5	4.4	30.9	14.2	100.0	457
	専門・短大・高専中退	58.4	12.4	3.4	19.5	6.3	100.0	380
	大学・大学院中退	68.1	14.3	5.5	9.9	2.2	100.0	182
	計	66.3	13.3	4.0	14.1	2.4	100.0	12,084
男女計	中学卒	51.3	17.5	6.0	20.0	5.3	100.0	435
	高校卒	61.9	15.7	4.8	15.8	1.8	100.0	7,941
	専門・短大・高専卒	68.4	15.6	4.1	11.0	0.9	100.0	6,482
	大学・大学院卒	70.1	19.8	4.5	5.5	0.1	100.0	5,671
	高校中退	48.5	15.5	4.8	23.9	7.3	100.0	1,019
	専門・短大・高専中退	63.0	15.7	2.8	14.7	3.8	100.0	709
	大学・大学院中退	70.8	17.5	3.6	7.1	1.0	100.0	692
	計	65.3	16.8	4.4	12.0	1.5	100.0	23,178

図表 1-22 第1子出生の時期 (2012年調査)

単位：%、太字は実数

	離学年及びそれ以前に出生した子のいる割合				子どものいる人に占める同割合			
	男性 (N)		女性 (N)		男性 (N)		女性 (N)	
中学卒	0.7	271	0.6	164	4.8	42	2.8	36
高校卒	0.6	4,209	1.4	3,732	4.9	491	6.4	791
専門・短大・高専卒	0.8	2,150	1.0	4,332	9.6	187	8.2	511
大学・大学院卒	0.8	2,933	0.5	2,738	16.2	148	8.2	158
高校中退	0.5	562	3.9	457	3.6	83	11.3	159
専門・短大・高専中退	0.6	329	3.4	380	6.9	29	14.8	88
大学・大学院中退	1.2	510	3.3	182	18.8	32	27.3	22
合計	0.7	11,094	1.2	12,084	7.8	1,023	8.2	1,779

さて、過去1年間の通院・入院と中途退学との間にも、若干の関係性が認められた。次の図表1-23にみるとおり、中退者の方が通院経験がある人がやや多い。通院を始めた時期は分からないのだが、中途退学の背景の一つとして、病気やけがなどの健康阻害がある可能性が示唆される。このことは、中退後の就業への移行が円滑に進まない要因のひとつとして留意すべきであろう。

図表 1-23 過去1年間の通院・入院経験（2012年調査）

単位：％、太字は実数

	通院のみあり	入院のみあり	通院及び入院あり	通院及び入院なし	不詳	合計	
男性	中学卒	5.5	0.7	1.1	85.2	7.4	271
	高校卒	4.6	0.3	0.2	90.9	4.0	4,209
	専門・短大・高専卒	5.9	0.3	0.2	90.2	3.5	2,150
	大学・大学院卒	5.3	0.2	0.1	91.9	2.5	2,933
	高校中退	6.6	0.9	0.2	83.5	8.9	562
	専門・短大・高専中退	8.8	0.0	0.0	86.3	4.9	329
	大学・大学院中退	10.2	0.0	0.2	86.1	3.5	510
合計	5.6	0.3	0.2	90.0	3.9	11,094	
女性	中学卒	7.3	0.0	0.0	79.3	13.4	164
	高校卒	7.7	0.2	0.5	87.9	3.7	3,732
	専門・短大・高専卒	7.2	0.2	0.2	89.4	3.0	4,332
	大学・大学院卒	8.9	0.1	0.1	88.9	2.0	2,738
	高校中退	9.4	0.4	0.0	84.5	5.7	457
	専門・短大・高専中退	12.6	0.3	0.3	82.6	4.2	380
	大学・大学院中退	12.6	0.0	0.0	83.0	4.4	182
合計	8.2	0.2	0.2	88.1	3.3	12,084	
男女計	中学卒	6.2	0.5	0.7	83.0	9.7	435
	高校卒	6.1	0.3	0.3	89.5	3.9	7,941
	専門・短大・高専卒	6.8	0.2	0.2	89.6	3.2	6,482
	大学・大学院卒	7.0	0.2	0.1	90.5	2.3	5,671
	高校中退	7.9	0.7	0.1	83.9	7.5	1,019
	専門・短大・高専中退	10.9	0.1	0.1	84.3	4.5	709
	大学・大学院中退	10.8	0.0	0.1	85.3	3.8	692
合計	7.0	0.2	0.2	89.0	3.6	23,178	

中途退学後の職業キャリアや就業状況についてデータを整理してきたが、そこには中途退学の影響ばかりでなく、他のさまざまなことが影響しているであろう。そのひとつが在学中の妊娠や出産、あるいは病気やけがなどで、中途退学の背後の要因となり、さらにその後の就業やキャリアを規定する要因となっている可能性が十分に考えられる。したがって、これらをコントロールしても、中退の影響があるかを検討することは重要である。しかし、離学年およびそれ以前に第1子がいたことが把握できた人はごくわずかで、この影響を検討することは難しい。

健康については、観察時期が前年1年間で在学中ではないのだが、中退の人の通院がやや多いことを考えると、長期的な疾患などを抱えている可能性もある。そこで、入院・通院の有無で分けたうえで、就業状況を見た。過去1年間に入院・通院の経験のある人は正社員就業者が少なく、無業である人が多い傾向があるのだが、この影響を除いた比較においても、中退者には、正社員が少なく非正規が多く、さらに無業者が多いという先に確認された傾向が見られた（図表1-24）。中退者の就業形態に、長期的な疾患が影響している可能性はあるが、就業状況の差異に関して、それで説明される部分は小さいということであろう。

図表 1-24 入院・通院経験の有無と現在の就業状況（2012年調査） 単位：％、太字は実数

		正社員	非正規	その他有業者	無業・求職者	無業・就業希望者	無業・非就業希望者	合計(N)		
男性	入院・通院有	中学卒	-	-	-	-	-	100.0	20	
		高校卒	38.8	18.2	17.8	11.2	5.1	8.9	100.0	214
		専門・短大・高専卒	44.9	20.6	19.9	9.6	2.9	2.2	100.0	136
		大学・大学院卒	47.0	13.4	18.9	14.6	3.0	3.0	100.0	164
		高校中退	20.9	20.9	20.9	11.6	16.3	9.3	100.0	43
		高等教育中退	22.0	30.5	17.1	13.4	12.2	4.9	100.0	82
		計	37.2	19.6	19.2	11.7	6.1	6.2	100.0	677
	入院・通院なし	中学卒	31.6	20.3	26.4	9.5	6.1	6.1	100.0	231
		高校卒	55.7	16.3	20.9	4.1	1.9	1.1	100.0	3,825
		専門・短大・高専卒	52.5	18.8	21.1	5.5	1.3	0.7	100.0	1,939
		大学・大学院卒	59.4	13.4	18.9	6.2	1.6	0.5	100.0	2,695
		高校中退	35.4	25.2	19.2	11.5	5.3	3.4	100.0	469
		専門・短大・高専中退	33.1	35.6	15.5	9.5	4.2	2.1	100.0	284
		大学・大学院中退	28.7	32.8	17.1	11.2	8.2	2.1	100.0	439
計	52.6	17.8	20.2	5.9	2.3	1.2	100.0	9,986		
女性	入院・通院有	中学卒	-	-	-	-	-	100.0	12	
		高校卒	22.0	33.2	12.5	11.8	8.6	11.8	100.0	313
		専門・短大・高専卒	40.2	28.4	14.9	7.3	7.0	2.1	100.0	328
		大学・大学院卒	48.2	21.7	14.9	6.4	5.6	3.2	100.0	249
		高校中退	4.4	35.6	4.4	15.6	20.0	20.0	100.0	45
		高等教育中退	13.7	37.0	11.0	17.8	11.0	9.6	100.0	73
		計	32.0	28.5	13.5	9.5	8.3	8.2	100.0	1,041
	入院・通院なし	中学卒	6.2	33.8	7.7	17.7	20.8	13.8	100.0	130
		高校卒	34.2	33.1	14.2	6.3	6.2	6.0	100.0	3,280
		専門・短大・高専卒	47.9	25.1	16.0	4.5	3.2	3.3	100.0	3,872
		大学・大学院卒	57.7	18.8	14.9	3.9	2.3	2.3	100.0	2,435
		高校中退	6.0	47.9	9.1	13.2	11.7	12.2	100.0	386
		専門・短大・高専中退	18.5	47.1	9.9	8.9	10.2	5.4	100.0	314
		大学・大学院中退	23.2	47.7	9.9	6.0	9.3	4.0	100.0	151
計	42.5	28.1	14.6	5.6	4.8	4.4	100.0	10,641		

注：入院・通院有の場合の「大学・大学院中退」「専門・短大・高専中退」は数が少ないことから「高等教育中退」にまとめた。

第7節 中退の長期的な影響

この節では、中途退学の長期的な影響を検討するために、「履歴データ」を用いる。「履歴データ」は2002年に20～34歳であった対象者の2012年までの調査結果を接続したものである。2012年の調査時点では30～44歳になっており、中途退学の時期（10代後半から20歳代はじめ）からすると、最長では30年近くの時間が経過している。

この「履歴データ」で本分析の対象とし得るケースは10,092である。うち中退学歴の人は568人（5.6%）であり、その内訳は大学院中退19人、大学中退134人、専門学校中退141人、短大・高専中退26人、高校中退244人である。2003年の第2回調査時点と比べると、調査全体のサンプルサイズは半分程度まで小さくなっており、調査への回答を得られなくなったケース（＝脱落ケース）はかなり多い。中退者の場合はさらに脱落の比率は高く、把握されたケース数は2003年時点の4割程度になっている。なかでも男女の高校中退者、男性の専門学校中退者、女性の短大・高専中退者の脱落は多く、継続しているケースは3割前後と

少ない。データの偏りが起こっているということで、結果の解釈は十分慎重であるべきであろう。

また、この調査では、2003年の第2回調査で学歴を把握した後、毎年の調査で1年間の学歴の変化を尋ねている。そこから現在中退学歴である568人のうち、13人は2003年時点では在学中であったことがわかる。一方2003年時点では中退学歴であった者が、その後何らかの学校に通って卒業したケースもある。これは全部で10ケース（男性6人、女性4人）あったが、履歴データで把握できる2003年時点の中途退学者（563人）の1.8%に過ぎない。中途退学後に学び直して新たな学歴を得ることは、実際にはあまりないということである。

この対象者を年齢段階で分けたものが次の図表1-26である。年齢が高いほど大学・大学院中退も専門・短大・高専中退も少なく、年齢段階を分けた検討は難しい。そこで、年齢段階を分けた議論をする際には、この2つはまとめて高等教育中退とする。

図表1-25 対象者の学歴構成（30～44歳：履歴データ） 単位：％、太字は実数

	男性		女性		男女計	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
中学卒	92	2.0	51	0.9	143	1.4
高校卒	1,640	35.9	1,768	32.0	3,408	33.8
卒業 専門学校卒	773	16.9	1,064	19.3	1,837	18.2
短大・高専卒	143	3.1	1,270	23.0	1,413	14.0
大学卒	1,318	28.9	1,025	18.5	2,343	23.2
大学院卒	196	4.3	64	1.2	260	2.6
他・不明の学校卒	57	1.2	63	1.1	120	1.2

高校中退	157	3.4	87	1.6	244	2.4
専門学校中退	61	1.3	80	1.4	141	1.4
中退 短大・高専中退	9	0.2	17	0.3	26	0.3
大学中退	104	2.3	30	0.5	134	1.3
者 大学院中退	15	0.3	4	0.1	19	0.2
他・不明の学校中退	1	0.0	3	0.1	4	0.0
中退者計(再掲)	347	7.6	221	4.0	568	5.6

合計	4,566	100.0	5,526	100.0	10,092	100.0

図表1-26 対象者の年齢段階別学歴構成（履歴データ） 単位：％、太字は実数

	男性			女性			男女計		
	30～34歳	35～39歳	40～44歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳
中学卒	1.9	1.5	2.5	0.8	0.7	1.1	1.3	1.1	1.8
高校卒	31.2	36.2	38.2	22.5	31.6	38.3	26.2	33.7	38.2
専門・短大・高専卒	20.2	22.3	18.3	42.1	42.7	41.9	32.8	33.4	31.0
大学・大学院卒	36.8	30.9	33.0	28.7	20.0	13.8	32.1	25.0	22.7

高校中退	3.0	3.5	3.6	1.5	1.7	1.6	2.1	2.5	2.5
専門・短大・高専中退	2.0	1.7	1.2	2.4	1.5	1.6	2.2	1.6	1.4
大学・大学院中退	3.2	2.8	2.1	0.7	0.8	0.4	1.8	1.7	1.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	1,069	1,510	1,987	1,442	1,786	2,298	2,511	3,296	4,285

注：大学院中退は大学中退に、短大・高専中退は専門学校中退と合わせて表示した。卒業の場合もこれに合わせてくつした。また、「他・不明の学校卒」「他・不明の学校中退」については掲載を省く。この学歴の扱いは特段の断りのない限り、この節の図表すべてに共通する。

まず、中途退学が30～44歳時の就業・無業の状況にどのように影響しているかを見る。図表1-27に全体の状況を示したが、男性の無業ははかなり低い水準となっており、中退者と卒業者との違いも大きくない。女性も無業者のうち就業希望者については中退者の方が多い傾向がみられるが、求職者については違いは大きくはない。雇用形態については、男性では中退者の正社員比率が低い傾向が指摘できる。

図表1-27 現在の就業・無業の状況（履歴データ）

単位：％、太字は実数

	正社員	非正規	その他有業者	無業・求職者	無業・就業希望者	無業・非就業希望	合計	
男性								
中学卒	31.5	13.0	34.8	6.5	6.5	7.6	100.0	92
高校卒	52.7	7.7	33.4	3.5	1.5	1.2	100.0	1,640
専門・短大・高専卒	56.4	6.8	31.2	3.1	1.2	1.3	100.0	916
大学・大学院卒	64.8	7.3	24.1	2.8	0.7	0.3	100.0	1,514
高校中退	47.1	8.3	35.0	5.1	1.9	2.5	100.0	157
専門・短大・高専中退	47.1	21.4	22.9	1.4	5.7	1.4	100.0	70
大学・大学院中退	39.5	15.1	32.8	5.0	3.4	4.2	100.0	119
合計	56.4	7.9	29.7	3.4	1.4	1.2	100.0	4,566
女性								
中学卒	9.8	37.3	23.5	5.9	11.8	11.8	100.0	51
高校卒	18.8	37.2	17.6	6.6	8.0	11.8	100.0	1,768
専門・短大・高専卒	26.4	30.5	17.3	6.2	7.6	12.0	100.0	2,334
大学・大学院卒	32.6	22.5	16.3	4.2	9.4	15.0	100.0	1,089
高校中退	8.0	36.8	18.4	8.0	13.8	14.9	100.0	87
専門・短大・高専中退	18.6	30.9	14.4	7.2	13.4	15.5	100.0	97
大学・大学院中退	32.4	32.4	8.8	5.9	8.8	11.8	100.0	34
合計	24.7	31.1	17.2	6.0	8.3	12.6	100.0	5,526
男女計								
中学卒	23.8	21.7	30.8	6.3	8.4	9.1	100.0	143
高校卒	35.1	23.0	25.2	5.1	4.9	6.7	100.0	3,408
専門・短大・高専卒	34.9	23.8	21.2	5.3	5.8	9.0	100.0	3,250
大学・大学院卒	51.3	13.6	20.9	3.4	4.3	6.5	100.0	2,603
高校中退	33.2	18.4	29.1	6.1	6.1	7.0	100.0	244
専門・短大・高専中退	30.5	26.9	18.0	4.8	10.2	9.6	100.0	167
大学・大学院中退	37.9	19.0	27.5	5.2	4.6	5.9	100.0	153
合計	39.0	20.6	22.9	4.8	5.2	7.5	100.0	10,092

このデータについても、無業の求職者を失業者として、失業率の推計を試みた。図表1-28に見るとおり、男性については3.4%と「2012年調査」や「2003年調査」より低い値となった。女性についても同じ対象者の10年ほど前に当たる「2003年調査」結果からすると低くなっている。中段の卒業者に対しての比を見ると、女性の大学・大学院中退は対象者がごく少ないので除外したが、全体としては2003年調査時より小さい値となっている。中退者に高かった失業のリスクは、時間の経過とともに低下していると見ることができるのだろうか。

そこで図表1-28②では、対象者の年齢段階を分けた時の結果を示した。女性の中退者は数が少ないので、分けて議論するには無理がある。中段の卒業者に対する比について、まず男女計の数値を見ると、40歳代前半では1倍、1.1倍と中退者と卒業者の間での失業率の差はほとんどないという結果が見える。男性の高校レベルでも年齢段階が高まるとリスクが低下している傾向が読み取れる。高等教育レベルでの数値の変化は方向が定まらないものの、

高校中退者において、特に中退によって失業リスクが高まる傾向が見られてことを考えると、全体としては、年齢の上昇（離学からの期間の経過）とともに失業に陥りやすいというリスクは低下している推測される。

図表 1-28 失業率の卒業者と中退者の比較（履歴データ）

①全年齢（30～44歳）

		全年齢(30～44歳)		
		男性	女性	男女計
失業率*	中学卒	7.6	7.7	7.6
	高校卒	3.6	8.3	5.8
	専門・短大・高専卒	3.1	7.7	6.2
	大学・大学院卒	2.9	5.6	3.8
	高校中退	5.3	11.3	7.1
	専門・短大・高専中退	1.5	10.1	6.0
	大学・大学院中退	5.5	-	5.8
	計	3.4	7.6	5.5
中退者/卒業者：高校		1.5	1.4	1.2
中退者/卒業者：専門・短大・高専		0.5	1.3	1.0
中退者/卒業者：大学・大学院		1.9	-	1.5
「就業者+無業求職者」(N)	中学卒	79	39	118
	高校卒	1,596	1,418	3,014
	専門・短大・高専卒	893	1,877	2,770
	大学・大学院卒	1,499	824	2,323
	高校中退	150	62	212
	専門・短大・高専中退	65	69	134
	大学・大学院中退	110	27	137
	計	4,445	4,368	8,813

②年齢段階別

	男性			女性			男女計			
	30～34歳	35～39歳	40～44歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	
失業率*	高校卒	5.0	3.4	3.1	7.4	9.9	7.5	6.1	6.3	5.3
	高等教育卒	4.3	2.5	2.5	5.8	8.7	6.7	5.2	5.7	4.7
	高校中退	12.5	4.1	2.9	-	-	-	8.2	9.2	5.1
	高等教育中退	4.3	4.7	3.1	9.4	11.1	8.1	6.3	6.6	5.0
	計	4.8	3.2	2.9	6.0	9.2	8.1	5.4	6.1	5.1
中退者/卒業者：高校		2.5	1.2	0.9	-	-	-	1.3	1.5	1.0
中退者/卒業者：高等教育		1.0	1.8	1.3	1.6	-	1.2	1.2	1.1	1.1
「就業者+無業求職者」(N)	高校卒	318	534	744	242	445	731	560	979	1,475
	高等教育卒	599	788	1,005	779	867	1,055	1,378	1,655	2,060
	高校中退	32	49	69	17	16	29	49	65	98
	高等教育中退	47	64	64	32	27	37	79	91	101
	計	1,027	1,470	1,948	1,094	1,378	1,896	2,121	2,848	3,844

注：*失業率は（無業求職者）／（就業者+無業求職者）×100 とした。

表の中段は、対応する教育段階ごとに、中退者の失業率を卒業者の失業率で除して求めた比。

次に非正規雇用率についてみる。図表 1-29 に見るとおり、雇用者に占める非正規雇用者の比率は、全体としては、男性では低下し女性では上昇するという、一般的な年齢別の動向を示している。卒業者と中退者との違いを見るための、中段の比の値を見ると、女性は高校レベルも専門・短大・高専レベルも 1.2 倍となっており、男性の高校レベルも同じ水準である。これに対して男性の高等教育レベルでは 3 倍近い高い数値となっている。女性および低

学歴の男性では、卒業者と中退者の非正規比率の差は小さいが、男性の高等教育レベルでは、中退したことがこの段階でも非正規比率の高さに繋がっている。

年齢段階を分けた②の表を見ると、高等教育卒業の男性の非正規比率は年齢が高いほど低くなっているが、中退者の場合は低下傾向はあるものの高い水準にとどまっている。高等教育段階での中退は、男性については長く雇用形態に影響しているといえる。

ただし、男女計にすると、中退の影響はほとんど見えなくなっている。女性の非正規雇用率が非常に高く、また女性の間では中退が雇用形態に及ぼす影響が小さいことから、全体としては、30代後半から40歳代にかけて、中退が雇用形態に及ぼす影響はほとんど確認できなくなっている。

図表1-29 雇用者中に占める非正規雇用者の比率（履歴データ）

①全年齢（30～44歳）

		全年齢(30～44歳)		
		男性	女性	男女計
雇用者中の非正規比率*	中学卒	29.3	-	47.7
	高校卒	12.8	66.5	39.6
	専門・短大・高専卒	10.7	53.6	40.6
	大学・大学院卒	10.1	40.8	21.0
	高校中退	14.9	82.1	35.7
	専門・短大・高専中退	31.3	62.5	46.9
	大学・大学院中退	27.7	-	33.3
	計	12.3	55.8	34.6
中退者/卒業者：高校		1.2	1.2	0.9
中退者/卒業者：専門・短大・高専		2.9	1.2	1.2
中退者/卒業者：大学・大学院		2.7	-	1.6
雇用者(N)	中学卒	42	25	67
	高校卒	1,006	1,006	2,012
	専門・短大・高専卒	583	1,353	1,936
	大学・大学院卒	1,105	623	1,728
	高校中退	89	40	129
	専門・短大・高専中退	48	48	96
	大学・大学院中退	68	22	90
	計	2,974	3,153	6,127

②年齢段階別

		男性			女性			男女計		
		30～34歳	35～39歳	40～44歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳
雇用者中の非正規比率*	高校卒	18.0	16.0	10.7	55.6	65.5	65.5	35.2	39.8	43.0
	高等教育卒	15.5	12.7	7.4	43.2	49.2	49.2	31.3	32.2	33.9
	高校中退	-	16.1	16.3	-	-	-	-	25.6	38.1
	高等教育中退	45.5	22.7	28.2	-	-	-	53.4	33.3	38.5
	計	17.8	15.0	9.8	47.4	55.1	63.6	33.6	35.0	37.5
中退者/卒業者：高校		-	1.0	1.5	-	-	-	-	0.6	0.9
中退者/卒業者：高等教育		2.9	1.8	3.8	-	-	-	1.7	1.0	1.1
雇用者(N)	高校卒	200	349	457	169	322	515	369	671	972
	高等教育卒	445	545	698	588	624	764	1,033	1,169	1,462
	高校中退	15	31	43	12	8	20	27	39	63
	高等教育中退	33	44	39	25	19	26	58	63	65
	計	712	988	1,274	815	986	1,352	1,527	1,974	2,626

次に検討するのは、所得や労働時間である。前の節での検討等同様に、前年の所得、現在の週労働時間が把握されているので、これを整理し、その上でそこから時間当たりの収入を推計して、これについて卒業者と中退者との間の差を検討する。

まず前年所得であるが、卒業者と中退者の差は、男性の高校レベルで約 57 万円、専門・短大・高専レベルで約 75 万円、大学・大学院レベルでは約 121 万円と大きい。時間当たり収入の比を 2003 年当時と比べてみると、大学・大学院中退の比の値は大きくなっており(66→75) 差が縮小した傾向があるが、専門・短大・高専や高校レベルでは逆にこの値は小さくなっており、差は拡大しているように見える。

女性の場合、大学・大学院中退者は特に少ないのでこれを除くと、収入差は高校レベルで約 31 万円、専門・短大・高専レベルで約 43 万円と男性より小さい。時間当たり収入の比は 87 と 82 で、2003 年時の 68、85 と比較すると、高校レベルでは差が縮小し、専門・短大・高専では、あまり変わらない。卒業したか中退したかで、収入に違いがある傾向は、この年齢層までであることは確かだが、縮小しているのか否かは、性別や学歴で異なる動きが混在しているようである。

変化の方向を検討するために、図表 1-30③では、男性のみ年齢段階別の所得や時間等を整理してみた。女性は中退者数が少ないので、ここまで分解することはできない。右側の卒業生に対する比の値を見ると、大学・大学院レベルで 79、76、82、高校レベルで 79 と 80 となっており、あまり変わらないとみるべきだろう。収入については、40 歳代でも違いがあるといえそうである。

図表 1-30 所得、労働時間、時間当たりの収入（履歴データ）

①男性

	前年の所得(現在有業の者のみ)		週労働時間(残業含む)		時間当たり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間当たり収入
	(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)	
中学卒	312.1	59	48.8	71	1,309	57	
高校卒	386.4	1,352	47.6	1,511	1,679	1,282	
専門・短大・高専卒	389.4	786	49.0	853	1,650	737	
大学・大学院卒	500.3	1,325	48.7	1,438	2,093	1,255	
高校中退	329.9	123	50.9	139	1,329	113	79
専門・短大・高専中退	314.7	59	47.6	64	1,387	52	84
大学・大学院中退	349.3	90	47.0	102	1,561	83	75

②女性

	前年の所得(現在有業の者のみ)		週労働時間(残業含む)		時間当たり収入		卒業者(=100)に対する中退者の時間当たり収入
	(万円)	(N)	(時間)	(N)	(円)	(N)	
中学卒	-	27	28.7	36	-	24	
高校卒	169.4	1,174	33.6	1,263	1,022	1,032	
専門・短大・高専卒	218.7	1,573	35.3	1,687	1,257	1,387	
大学・大学院卒	293.8	735	37.6	743	1,568	638	
高校中退	138.4	48	32.6	55	890	42	87
専門・短大・高専中退	175.9	56	34.3	61	1,036	42	82
大学・大学院中退	-	25	-	24	-	21	-

③男性・年齢段階別

	前年の所得 (万円)				現在の週労働時間 (時間)				時間当たり収入 (円)				卒業者(=100)に対する中退者の時間当たり収入	
	高校卒	高等教育卒	高校中退	高等教育中退	高校卒	高等教育卒	高校中退	高等教育中退	高校卒	高等教育卒	高校中退	高等教育中退		
30～34歳	332.7	387.6	-	301.7	46.7	47.9	-	47.1	1,463	1,648	-	1,306	-	79
35～39歳	373.9	435.4	318.4	319.8	47.7	48.6	52.8	45.9	1,607	1,845	1,271	1,410	79	76
40～44歳	420.9	521.4	372.6	380.9	47.9	49.5	51.5	48.7	1,834	2,165	1,460	1,773	80	82
対 30～34歳	267	528	26	42	298	563	28	45	250	486	24	37		
象 35～39歳	453	689	38	53	508	759	47	60	432	648	34	49		
数 40～44歳	632	894	59	54	705	969	64	61	600	858	55	49		

注：対象は現在有業の者のみで、上下5%を除く平均値。

* 前年所得は勤労所得（税込）とその他の所得の合計。前年の所得なしの者を除いて集計した。

* 時間当たり収入は 前年の年収 / (現在の平均的な1週間の就業時間(残業含む) × 50週)。前年所得があり、かつ現職経験年数が1年以上の者のみを集計した。

* 「その他・不明の学校卒」「同中退」は掲載を省いた。

* ③の集計においては、「中学卒」の掲載も省き、また、「専門・短大・高専」と「大学・大学院」はあわせて「高等教育」として扱った。

次に、家族形成の状況を見る。図表1-31にみるように、まず、全体として有配偶で子どもがいる人が男性の5割、女性の6割を超える一方、独身で親元にいる人は男性の25%、女性の18%にまで低下し、家族形成が進んでいることがうかがえる。

図表1-31 家族形成の状況（履歴データ）

単位：%、太字は実数

	独身親同居	独身非親同居	有配偶・子どもなし	有配偶・子ども有	無配偶・子ども有	合計	
	中学卒	40.2	10.9	5.4	41.3	2.2	
高校卒	24.3	10.7	9.0	54.1	2.0	100.0	1,640
専門・短大・高専卒	29.6	9.5	8.4	52.1	0.4	100.0	916
男性 大学・大学院卒	20.2	12.9	12.9	53.3	0.6	100.0	1,514
高校中退	24.8	10.8	7.0	50.3	7.0	100.0	157
専門・短大・高専中退	35.7	14.3	5.7	41.4	2.9	100.0	70
大学・大学院中退	32.8	11.8	11.8	43.7	0.0	100.0	119
合計	24.9	11.2	10.0	52.5	1.4	100.0	4,566
女性 中学卒	25.5	7.8	5.9	52.9	7.8	100.0	51
高校卒	15.6	3.5	7.8	66.8	6.3	100.0	1,768
専門・短大・高専卒	18.7	5.7	10.8	60.6	4.2	100.0	2,334
大学・大学院卒	20.5	8.3	14.2	54.0	3.0	100.0	1,089
高校中退	17.2	1.1	6.9	57.5	17.2	100.0	87
専門・短大・高専中退	27.8	9.3	11.3	43.3	8.2	100.0	97
大学・大学院中退	23.5	14.7	8.8	47.1	5.9	100.0	34
合計	18.4	5.7	10.4	60.6	5.0	100.0	5,526
男女計 中学卒	35.0	9.8	5.6	45.5	4.2	100.0	143
高校卒	19.8	6.9	8.4	60.7	4.2	100.0	3,408
専門・短大・高専卒	21.8	6.8	10.1	58.2	3.1	100.0	3,250
大学・大学院卒	20.3	11.0	13.5	53.6	1.6	100.0	2,603
高校中退	22.1	7.4	7.0	52.9	10.7	100.0	244
専門・短大・高専中退	31.1	11.4	9.0	42.5	6.0	100.0	167
大学・大学院中退	30.7	12.4	11.1	44.4	1.3	100.0	153
合計	21.3	8.2	10.2	56.9	3.3	100.0	10,092

ここでの、中退と卒業の違いを見ると、大きな差ではないが、男女とも中退者の方が有配偶で子どものいる人が少なく、独身で親と同居している人が多い。この傾向は高等教育段階での中退者により明らかである。20歳代が対象の「2012年調査」では、高校中退者を中心に、中退者の方が家族形成が早い傾向が見られたが、30歳以上になると逆転している。中退者には家族形成の早いグループと遅いグループがいるということであろう。

次の図表1-32では、年齢段階で分けて家族形成の進展の程度を見たものである。男女とも、年齢段階が上がることに「有配偶・子ども有」の人が増えているが、男性中退者の場合、40歳代前半で急激にこの比率が高まっている。40歳といった節目が行動を変えさせることもあるのかもしれない。

図表1-32 年齢段階別家族の状況（履歴データ）

①男性

単位：%、太字は実数

	独身親同居	独身非親同居	有配偶・子どもなし	有配偶・子ども有	無配偶・子ども有	合計(N)		
30～34歳	高校卒	38.9	13.8	9.9	36.8	0.6	100.0	334
	専門・短大・高専卒	44.9	13.4	8.3	33.3	0.0	100.0	216
	大学・大学院卒	29.5	20.4	16.0	34.1	0.0	100.0	393
	高校中退	34.4	15.6	3.1	37.5	9.4	100.0	32
	高等教育中退	40.0	20.0	7.3	30.9	1.8	100.0	55
	合計	37.0	16.5	11.3	34.5	0.7	100.0	1,069
35～39歳	高校卒	24.1	10.6	10.2	53.6	1.5	100.0	547
	専門・短大・高専卒	31.2	8.0	10.1	50.7	0.0	100.0	337
	大学・大学院卒	20.0	14.6	12.9	52.1	0.4	100.0	466
	高校中退	26.4	7.5	11.3	45.3	9.4	100.0	53
	高等教育中退	43.5	13.0	8.7	33.3	1.4	100.0	69
	合計	25.8	11.1	10.8	51.2	1.1	100.0	1,510
40～44歳	高校卒	17.9	9.4	7.6	62.2	2.9	100.0	759
	専門・短大・高専卒	19.0	8.5	6.9	64.5	1.1	100.0	363
	大学・大学院卒	14.8	7.3	11.1	65.6	1.1	100.0	655
	高校中退	19.4	11.1	5.6	59.7	4.2	100.0	72
	高等教育中退	18.5	6.2	12.3	63.1	0.0	100.0	65
	合計	17.8	8.5	8.8	63.1	1.9	100.0	1,987

②女性

単位：％、太字は実数

	独身親同居	独身非親同居	有配偶・子どもなし	有配偶・子ども有	無配偶・子ども有	合計(N)		
30～34歳	高校卒	32.3	7.1	10.5	47.1	3.1	100.0	325
	専門・短大・高専卒	29.7	8.1	15.7	44.5	2.1	100.0	607
	大学・大学院卒	28.5	10.9	19.3	39.9	1.4	100.0	414
	高校中退	-	-	-	-	-	100.0	21
	高等教育中退	28.9	11.1	22.2	33.3	4.4	100.0	45
	合計	30.1	8.7	15.4	43.5	2.3	100.0	1,442
35～39歳	高校卒	15.8	4.6	8.2	66.7	4.8	100.0	564
	専門・短大・高専卒	19.9	6.7	9.4	59.9	4.1	100.0	763
	大学・大学院卒	20.7	7.6	10.6	58.5	2.5	100.0	357
	高校中退	26.7	0.0	6.7	53.3	13.3	100.0	30
	高等教育中退	27.5	12.5	5.0	42.5	12.5	100.0	40
	合計	19.1	6.3	9.2	61.1	4.4	100.0	1,786
40～44歳	高校卒	9.3	1.4	6.6	74.2	8.5	100.0	879
	専門・短大・高専卒	10.8	3.5	8.8	71.4	5.5	100.0	964
	大学・大学院卒	9.7	5.7	11.6	67.3	5.7	100.0	318
	高校中退	5.6	2.8	11.1	55.6	25.0	100.0	36
	高等教育中退	23.9	8.7	4.3	56.5	6.5	100.0	46
	合計	10.5	3.3	8.3	70.8	7.1	100.0	2,298

第8節 求職活動経験とハローワーク等の利用

最後に、「2012年調査」から、過去1年間の求職活動についてみる。これは別途行っているハローワークを通じての中退経験のある人に対する調査について、その把握できる範囲の特徴について検討するためである。

元の設問は、図表1-33に示す4つの選択肢に、「職業能力を向上させるため公共の施設を利用した」「資格、免許等を取得するために学校や通信教育等で勉強した」「特に何もしていない」の3つを加えた計7つの選択肢を示し、多重回答を求める形である。ここでは、求職活動に当たる4つだけに注目する。

全体として、過去1年間に何らかの求職活動をした人（＝図表中の4つの設問のいずれかに○を付けた人）は全体の26.8%で、4人に1人にあたる。そして、その6割が「ハローワーク等公的機関で求職活動をした」としている¹⁰。

中退者の回答に注目すると、まず、中退者は卒業者より求職活動経験者割合が多い。先にみたとおり中退者には無業で求職中の方が卒業者より多いことに加えて、非正規雇用率も高く、新たな職を求める人が多いと思われる。中退者の中では、特に専門・短大・高専中退者で多く、男女とも4割の人が求職活動をしている。その活動の中でのハローワーク等の利用経験のある人は、やはり専門・短大・高専中退者で多く、7割近い。一方、大学・大学院中退では男性は6割近くがハローワーク等を利用しているが、女性は5割にとどまる。

¹⁰ 入職経路としてハローワーク及びハローワークインターネットサービスを挙げる人は、入職者の25%にかぎられる（厚生労働省（2012）「雇用動向調査」）が、本設問は、求職活動の一環としてハローワーク等の公的機関を利用したことがあるかを問うものであるため、より高い利用率となったと考えられる。

求職活動の一環としてハローワークを利用する中退者は、5割から7割に達していることから、ハローワークを通じた調査で就業支援を要する中退者の実態を測ることは可能だと思われる。

図表 1-33 過去1年間の求職活動の経験と内容（2012年調査）

単位：％、太字は実数

	中学卒	高校卒	専門・短大・高専卒	大学・大学院卒	高校中退	専門・短大・高専中退	大学・大学院中退	合計	
男性	ハローワーク等公的機関で求職活動	65.6	70.4	69.4	49.8	61.5	68.1	59.8	62.6
	公的機関で就職ガイダンス等を受けた	3.1	5.2	10.7	16.7	1.9	6.7	8.0	9.9
	求人情報サイトに登録した	12.5	17.2	26.6	46.0	25.0	23.0	29.6	29.3
	その他の求職活動をした	46.9	36.0	36.7	38.6	47.4	33.3	41.7	38.1
	求職活動経験者計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(N)	64	822	591	861	156	135	199	2,850
求職活動経験者比率	23.6	19.5	27.5	29.4	27.8	41.0	39.0	25.7	
女性	ハローワーク等公的機関で求職活動	48.7	68.9	64.4	50.5	63.0	67.5	47.8	62.0
	公的機関で就職ガイダンス等を受けた	0.0	3.8	7.3	16.7	2.2	6.0	1.5	8.1
	求人情報サイトに登録した	25.6	23.0	29.7	48.2	29.0	27.8	26.9	31.9
	その他の求職活動をした	41.0	34.8	34.5	38.7	41.3	30.5	49.3	36.0
	求職活動経験者計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(N)	39	1004	1143	796	138	151	67	3,365
求職活動経験者比率	23.8	26.9	26.4	29.1	30.2	39.7	36.8	27.8	
男女計	ハローワーク等公的機関で求職活動	59.2	69.6	66.1	50.2	62.2	67.8	56.8	62.3
	公的機関で就職ガイダンス等を受けた	1.9	4.4	8.5	16.7	2.0	6.3	6.4	8.9
	求人情報サイトに登録した	17.5	20.4	28.7	47.1	26.9	25.5	28.9	30.7
	その他の求職活動をした	44.7	35.3	35.2	38.6	44.6	31.8	43.6	37.0
	求職活動経験者計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	(N)	103	1826	1734	1657	294	286	266	6,215
求職活動経験者比率	23.7	23.0	26.8	29.2	28.9	40.3	38.4	26.8	

一方、求職活動をしている人が3～4割に限られるため、中退者全体の就業行動などより一般的な情報を把握するためには、ハローワーク経由の調査で得られる情報は偏っている。すなわち、ハローワーク利用者は中退者全体からすると、高校中退では18%、専門・短大・高専中退では27%、大学中退では22%と限られる。調査結果の分析にあたっては、こうした偏りに留意する必要があるだろう。

第9節 まとめ

本章の検討で明らかになった主な点は、以下のとおりである。

- ① 卒業や中退で学校を離れた（以降、離学と呼ぶ）20歳代の若者の10人に1人は学校中退者である。男性に限れば8人に1人と多い。中退者は増加傾向にあり、20歳代後半層にしぼった数字では2003年の7.5%から2012年の10.5%に増えた。最も増加率が高いのは大学中退者である。
- ② 離学後、何らかの就業までの期間は、卒業者に比べて中退者では長い。中退者の場合、離学から3カ月以内に就業した者は3割に満たず、3カ月以上かかった者の方が多い。3年以上の期間の空きがある者、あるいは現在も未就業の者が合わせて2～3割いる。2003年時の調査と比較すると、就業までにかかる期間は長くなる傾向にある。

- ③ 正社員としての就業までの期間はさらに長い。中退者で離学から3か月以内に正社員になった者は大学・大学院中退で1割、高校中退では数%にとどまる。中退者の6割前後がこれまで一度も正社員を経験していない。この比率は女性で特に高い。
- ④ 現在の就業状況を見ると、中退者は卒業者に比べて無業の者が多い。無業で、求職中ないし就業希望を持つ者が、中退者では男女とも全体の2割から2割5分程度を占める。無業で求職中の者を失業者として失業率を求めると、中退者の失業率は同じ教育段階の卒業者の2倍前後と高い。この比は高校中退の場合が最も大きく、高校段階での中退は他の教育段階での中退以上に失業のリスクを高めている。
- ⑤ 雇用形態に注目すると、中退者は非正規雇用が多い。雇用者に占める非正規雇用比率を同じ教育段階の卒業者と比べると、男女とも2倍前後になっている。この比は大学・大学院卒が最も大きく、大学・大学院段階での中退は非正規雇用になるリスクを他の教育段階での中退以上に高めている。
- ⑥ 無業で求職中か就業希望のある中退者では、男性の6～7割、女性の2～3割が正社員就職を希望している。この希望は、就業中の中退者の就業形態に比べると、男女とも、より正社員に偏っており、正社員希望があってもなかなか叶えられずに求職を続けている可能性が高い。
- ⑦ 前年の所得と現在の1週間の労働時間という限られた情報から、疑似的に労働時間1時間当たりの収入を求め、これを同じ教育段階を中退した者と卒業した者と比較すると、中退者の時間当たり収入は卒業者の7割から9割の水準にとどまった。男女とも高い教育段階で中退した者ほどこの値は低く、高い段階での中途退学ほど収入に与える影響は大きいことが示唆された。
- ⑧ 対象者が30歳から40歳代前半に達している「履歴データ」から、中退の長期的な影響を検討すると、30歳代後半から40歳代にかけて、同じ教育段階の卒業者との差異は、失業率についてはかなり改善された。非正規雇用率については、男性の大学・大学院段階での中退と卒業の差異は明らかであったものの、非正規雇用の多くを占める女性での差異が小さいために全体としては、差異は小さくなった。収入への影響は、この年齢層でも同じように残っていた。

以上、「21世紀成年者縦断調査」のデータ分析から得られた情報をまとめたが、最後に、今回の分析においては、中退の影響を過大評価している可能性があることを指摘しておきたい。それは、中途退学の背後に別の要因があり、そのことが中途退学を促す要因になるとともに、その後の就業にも影響を与えている可能性である。例えば、病気やけが、早い妊娠や出産、障害、貧困、家族内のトラブルなど、いろいろな要因が想定される。本分析の中でも、在学中の病気やけが、あるいは妊娠や出産などの可能性を指摘し、本データで得られる範囲ではその影響を検討した。しかし、情報が限られおり、十分な検討はできなかった。

また、大学等の中退率は大学の選抜性や学部・学科等によってもかなり異なることが指摘されている¹¹。こうした学校の情報は本データにはないため、これらの要因の影響もここでは考慮できなかった。

「21世紀成年者縦断調査」は貴重なパネル調査であり、この調査データなくしては今回の研究は不可能であった。今後ともこうしたパネル調査が蓄積され続けることを期待するとともに、学校中退に対する問題意識を組み込んだ長期的な調査研究が別途必要であることも付言しておきたい。

引用文献

- 文部科学省・中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会（2010）「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育のあり方について（第2次審議経過報告）」
- 文部科学省（2014a）「学生の中途退学や休学等の状況について」
- 文部科学省（2014b）「平成25年度生涯学習施策に関する調査研究：専修学校における生徒・学生支援等に対する基礎調査報告書」

¹¹ 序章参照。

付表1 「2003年調査」における分析対象者の学歴構成（男女別）

単位：%、太字は実数

	男性		女性		男女計	
	実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
中学卒	254	2.7	131	1.2	385	1.9
高校卒	3,567	38.4	3,596	34.2	7,163	36.2
専門学校卒	1,604	17.3	1,989	18.9	3,593	18.1
短大・高専卒	299	3.2	2,433	23.2	2,732	13.8
大学卒	2,381	25.6	1,696	16.1	4,077	20.6
大学院卒	204	2.2	61	0.6	265	1.3
他・不明の学校卒	67	0.7	52	0.5	119	0.6
高校中退	451	4.9	240	2.3	691	3.5
専門学校中退	191	2.1	171	1.6	362	1.8
短大・高専中退	20	0.2	64	0.6	84	0.4
大学中退	235	2.5	67	0.6	302	1.5
大学院中退	18	0.2	6	0.1	24	0.1
他・不明の学校中退	6	0.1	2	0.0	8	0.0
合計	9,297	100.0	10,508	100.0	19,805	100.0

付表2 「2003年調査」における離学から就業までの期間（男女別）

① 年齢計（21～34歳）

単位：％、太字は実数

	離学前	離学～3ヶ月以内	3年超	3年以上後	期間不明	未就業・不明	合計		
男	中学卒	3.5	29.9	10.2	10.2	41.3	4.7	100.0	254
	高校卒	8.1	60.4	7.7	2.4	19.7	1.8	100.0	3,567
	専門・短大・高専卒	10.0	64.8	6.3	2.0	15.7	1.3	100.0	1,903
	大学・大学院卒	7.7	69.1	8.8	1.4	10.9	2.2	100.0	2,585
性	高校中退	11.3	23.5	23.7	4.9	33.3	3.3	100.0	451
	専門・短大・高専中退	15.2	29.4	20.9	3.3	28.0	3.3	100.0	211
	大学・大学院中退	20.6	30.0	22.5	2.0	16.2	8.7	100.0	253
	合計	9.0	59.5	9.3	2.4	17.7	2.2	100.0	9,297
女	中学卒	2.3	30.5	9.9	9.2	41.2	6.9	100.0	131
	高校卒	6.7	67.3	5.5	1.9	17.2	1.4	100.0	3,596
	専門・短大・高専卒	8.6	69.7	8.0	2.1	10.4	1.0	100.0	4,422
	大学・大学院卒	6.8	70.1	8.3	1.3	10.6	2.8	100.0	1,757
性	高校中退	13.3	17.5	23.8	5.4	34.2	5.8	100.0	240
	専門・短大・高専中退	22.6	21.3	26.8	2.6	25.1	1.7	100.0	235
	大学・大学院中退	20.5	23.3	30.1	2.7	11.0	12.3	100.0	73
	合計	8.2	65.7	8.2	2.1	14.0	1.8	100.0	10,508

② うち 25～29歳

単位：％、太字は実数

	離学前	離学～3ヶ月以内	3年超	3年以上後	期間不明	未就業・不明	合計		
男	中学卒	3.9	28.6	7.8	10.4	45.5	3.9	100.0	77
	高校卒	9.0	58.1	7.7	1.7	21.6	1.9	100.0	1,125
	専門・短大・高専卒	10.7	66.2	7.1	2.2	13.6	0.3	100.0	693
	大学・大学院卒	9.4	65.7	11.3	1.1	10.4	2.1	100.0	935
性	高校中退	8.6	25.0	28.1	3.1	32.8	2.3	100.0	128
	専門・短大・高専中退	13.8	27.6	20.7	5.7	27.6	4.6	100.0	87
	大学・大学院中退	23.5	27.6	20.4	2.0	17.3	9.2	100.0	98
	合計	10.0	58.3	10.2	2.0	17.6	2.0	100.0	3,160
女	中学卒	6.5	32.3	12.9	9.7	32.3	6.5	100.0	31
	高校卒	7.0	66.5	6.4	1.4	17.4	1.4	100.0	1,032
	専門・短大・高専卒	9.1	68.6	10.2	1.5	9.5	1.2	100.0	1,466
	大学・大学院卒	7.0	69.9	10.5	0.3	10.5	1.7	100.0	712
性	高校中退	7.0	18.3	28.2	5.6	35.2	5.6	100.0	71
	専門・短大・高専中退	24.4	20.9	26.7	3.5	23.3	1.2	100.0	86
	大学・大学院中退	16.0	28.0	28.0	0.0	8.0	20.0	100.0	25
	合計	8.5	65.2	10.1	1.4	13.2	1.6	100.0	3,437

付表3 「2003年調査」における離学から正社員就業までの期間（男女別）

①年齢計（21～34歳）

単位：％、太字は実数

	離学前	離学～			正社員 時期不 明	正社員 移行なし	就業形 態不明	未就業・ 不明	合計	
		3ヶ月以 内	3年以内	3年超						
中学卒	2.4	18.9	6.3	6.7	23.2	29.5	8.3	4.7	100.0	254
高校卒	5.4	51.3	4.4	1.5	13.5	14.1	8.0	1.8	100.0	3,567
専門・短大・高専卒	5.8	55.1	3.6	1.5	12.0	13.7	7.0	1.3	100.0	1,903
男性 大学・大学院卒	4.1	60.8	5.3	1.2	7.6	12.3	6.6	2.2	100.0	2,585
男性 高校中退	3.3	11.3	14.0	3.5	23.5	32.6	8.4	3.3	100.0	451
専門・短大・高専中退	1.9	13.3	12.8	1.9	28.9	30.8	7.1	3.3	100.0	211
大学・大学院中退	5.1	17.4	15.0	2.4	13.8	32.4	5.1	8.7	100.0	253
合計	4.9	49.9	5.5	1.7	12.6	15.8	7.3	2.2	100.0	9,297
中学卒	0.0	14.5	5.3	6.9	6.9	51.9	7.6	6.9	100.0	131
高校卒	4.4	59.2	3.8	1.4	9.9	16.9	3.0	1.4	100.0	3,596
専門・短大・高専卒	5.3	58.5	6.8	1.8	6.7	15.2	4.7	1.0	100.0	4,422
女性 大学・大学院卒	3.5	55.2	5.3	0.9	7.1	19.6	5.6	2.8	100.0	1,757
女性 高校中退	2.9	5.0	12.1	5.4	11.7	54.2	2.9	5.8	100.0	240
専門・短大・高専中退	8.5	10.6	17.0	3.8	11.5	41.3	5.5	1.7	100.0	235
大学・大学院中退	2.7	11.0	19.2	2.7	8.2	41.1	2.7	12.3	100.0	73
合計	4.7	54.9	5.9	1.7	8.1	18.7	4.3	1.8	100.0	10,508

②うち25～29歳

単位：％、太字は実数

	離学前	離学～			正社員 時期不 明	正社員 移行なし	就業形 態不明	未就業・ 不明	合計	
		3ヶ月以 内	3年以内	3年超						
中学卒	3.9	18.2	3.9	6.5	22.1	33.8	7.8	3.9	100.0	77
高校卒	6.3	49.9	4.5	0.9	13.6	14.7	8.3	1.9	100.0	1,125
専門・短大・高専卒	5.9	55.4	3.6	1.4	12.6	13.9	6.9	0.3	100.0	693
男性 大学・大学院卒	5.3	55.7	6.0	0.7	8.1	15.8	6.1	2.1	100.0	935
男性 高校中退	4.7	12.5	14.8	1.6	26.6	31.3	6.3	2.3	100.0	128
専門・短大・高専中退	1.1	11.5	13.8	1.1	36.8	23.0	8.0	4.6	100.0	87
大学・大学院中退	5.1	13.3	8.2	2.0	15.3	39.8	7.1	9.2	100.0	98
男性計	5.6	48.2	5.5	1.2	13.2	17.1	7.2	2.0	100.0	3,160
中学卒	0.0	12.9	9.7	6.5	3.2	54.8	6.5	6.5	100.0	31
高校卒	4.7	56.8	4.3	0.8	10.9	18.8	2.5	1.4	100.0	1,032
専門・短大・高専卒	5.2	55.8	8.8	1.6	7.4	15.6	4.5	1.2	100.0	1,466
女性 大学・大学院卒	3.8	52.7	5.9	0.4	8.0	20.8	6.7	1.7	100.0	712
女性 高校中退	0.0	1.4	12.7	8.5	14.1	57.7	0.0	5.6	100.0	71
専門・短大・高専中退	8.1	10.5	16.3	3.5	14.0	41.9	4.7	1.2	100.0	86
大学・大学院中退	0.0	12.0	8.0	0.0	8.0	48.0	4.0	20.0	100.0	25
女性計	4.7	52.3	7.1	1.4	8.8	19.8	4.3	1.6	100.0	3,437

付表4 現在の就業・無業の状況 (25～29歳)

単位：%、太字は実数

		正社員	非正規	その他有業者	無業・求職者	無業・就業希望者	無業・非就業希望	計		
2012年	男性	中学卒	35.4	17.7	25.0	9.1	6.7	6.1	100.0	164
		高校卒	54.4	16.5	21.4	3.9	2.1	1.6	100.0	2,164
		専門・短大・高専卒	53.3	17.3	22.4	4.8	1.4	0.8	100.0	1,342
		大学・大学院卒	61.0	11.9	19.2	5.8	1.4	0.6	100.0	2,151
		高校中退	37.5	18.5	24.9	10.3	5.9	2.9	100.0	341
		専門・短大・高専中退	38.0	26.8	17.3	8.4	5.0	4.5	100.0	179
		大学・大学院中退	36.3	26.7	19.9	7.7	7.4	1.9	100.0	311
		計	53.5	16.1	21.0	5.5	2.4	1.5	100.0	6,723
	女性	中学卒	5.6	37.1	9.0	12.4	19.1	16.9	100.0	89
		高校卒	28.6	35.0	12.8	7.1	8.1	8.4	100.0	1,978
		専門・短大・高専卒	45.0	25.5	14.9	4.9	5.0	4.7	100.0	2,481
		大学・大学院卒	55.2	19.0	14.9	4.2	3.4	3.3	100.0	1,906
		高校中退	5.5	44.4	9.1	12.4	14.2	14.5	100.0	275
		専門・短大・高専中退	17.1	41.9	10.4	11.7	10.4	8.6	100.0	222
大学・大学院中退		25.7	40.6	13.9	5.0	10.9	4.0	100.0	101	
計		39.8	28.0	13.9	6.0	6.3	6.0	100.0	7,101	
男女計	中学卒	24.9	24.5	19.4	10.3	11.1	9.9	100.0	253	
	高校卒	42.1	25.3	17.3	5.5	5.0	4.9	100.0	4,142	
	専門・短大・高専卒	47.9	22.6	17.5	4.9	3.7	3.3	100.0	3,823	
	大学・大学院卒	58.3	15.3	17.2	5.1	2.4	1.8	100.0	4,057	
	高校中退	23.2	30.0	17.9	11.2	9.6	8.1	100.0	616	
	専門・短大・高専中退	26.4	35.2	13.5	10.2	8.0	6.7	100.0	401	
	大学・大学院中退	33.7	30.1	18.4	7.0	8.3	2.4	100.0	412	
	計	46.5	22.2	17.4	5.7	4.4	3.8	100.0	13,824	
2003年	男性	中学卒	33.8	15.6	35.1	6.5	2.6	6.5	100.0	77
		高校卒	59.4	10.0	21.9	5.5	1.6	1.6	100.0	1,125
		専門・短大・高専卒	61.8	13.0	16.6	7.4	1.0	0.3	100.0	693
		大学・大学院卒	66.8	11.8	13.8	6.0	1.0	0.6	100.0	935
		高校中退	49.2	14.1	24.2	8.6	2.3	1.6	100.0	128
		専門・短大・高専中退	52.9	10.3	24.1	9.2	3.4	0.0	100.0	87
		大学・大学院中退	34.7	22.4	25.5	6.1	7.1	4.1	100.0	98
		計	60.0	11.9	18.9	6.3	1.6	1.2	100.0	3,160
	女性	中学卒	9.7	45.2	16.1	6.5	12.9	9.7	100.0	31
		高校卒	29.4	29.2	8.5	9.1	9.6	14.2	100.0	1,032
		専門・短大・高専卒	43.9	23.1	10.6	5.0	7.4	10.0	100.0	1,466
		大学・大学院卒	47.9	20.2	13.8	7.0	3.7	7.4	100.0	712
		高校中退	11.3	33.8	5.6	15.5	11.3	22.5	100.0	71
		専門・短大・高専中退	19.8	40.7	8.1	7.0	12.8	11.6	100.0	86
大学・大学院中退		16.0	32.0	12.0	28.0	8.0	4.0	100.0	25	
計		38.5	25.3	10.5	7.1	7.5	11.1	100.0	3,437	
男女計	中学卒	26.9	24.1	29.6	6.5	5.6	7.4	100.0	108	
	高校卒	45.0	19.2	15.5	7.2	5.4	7.6	100.0	2,157	
	専門・短大・高専卒	49.7	19.8	12.5	5.7	5.4	6.9	100.0	2,159	
	大学・大学院卒	58.7	15.4	13.8	6.4	2.1	3.6	100.0	1,647	
	高校中退	35.7	21.1	17.6	11.1	5.5	9.0	100.0	199	
	専門・短大・高専中退	36.4	25.4	16.2	8.1	8.1	5.8	100.0	173	
	大学・大学院中退	30.9	24.4	22.8	10.6	7.3	4.1	100.0	123	
	計	48.8	18.9	14.5	6.7	4.7	6.4	100.0	6,597	

付表5 就業者の現職就業形態

①2012年調査

単位：%、太字は実数

	役員・自 営業主	自家営業 の手伝 い、内職	正規の職 員・従業 員	アルバイ ト・パート	派遣・契 約・嘱託	その他	不詳	合計(N)		
男性	中学卒	12.0	3.8	39.2	20.6	8.1	6.7	9.6	100.0	209
	高校卒	5.1	3.1	59.4	11.3	6.6	1.7	12.7	100.0	3,859
	専門・短大・高専卒	4.3	3.7	56.4	11.9	8.6	0.9	14.2	100.0	1,980
	大学・大学院卒	4.6	2.0	64.6	9.3	5.5	1.8	12.2	100.0	2,669
	高校中退	8.4	6.1	43.1	23.9	7.7	0.9	9.9	100.0	443
	専門・短大・高専中退	4.5	3.0	40.3	27.2	14.6	0.7	9.7	100.0	268
	大学・大学院中退	4.3	4.8	35.5	33.0	9.3	1.5	11.8	100.0	400
合計	5.0	3.2	57.4	13.0	7.1	1.7	12.6	100.0	9,931	
女性	中学卒	5.3	2.7	12.0	61.3	10.7	1.3	6.7	100.0	75
	高校卒	2.4	2.3	40.9	33.0	8.4	1.2	11.8	100.0	2,997
	専門・短大・高専卒	2.8	1.7	53.3	16.9	12.0	1.6	11.6	100.0	3,835
	大学・大学院卒	2.6	0.7	62.5	9.2	11.8	2.5	10.8	100.0	2,490
	高校中退	2.2	2.2	10.4	66.7	8.2	1.1	9.3	100.0	279
	専門・短大・高専中退	1.4	4.3	23.6	50.7	12.1	0.0	7.9	100.0	280
	大学・大学院中退	2.8	2.8	28.9	45.1	14.1	0.7	5.6	100.0	142
合計	2.6	1.7	49.1	22.9	10.8	1.7	11.2	100.0	10,168	
男女計	中学卒	10.2	3.5	32.0	31.3	8.8	5.3	8.8	100.0	284
	高校卒	3.9	2.7	51.3	20.8	7.4	1.5	12.3	100.0	6,856
	専門・短大・高専卒	3.3	2.4	54.4	15.2	10.9	1.3	12.5	100.0	5,815
	大学・大学院卒	3.6	1.4	63.6	9.2	8.6	2.1	11.5	100.0	5,159
	高校中退	6.0	4.6	30.5	40.4	7.9	1.0	9.7	100.0	722
	専門・短大・高専中退	2.9	3.6	31.8	39.2	13.3	0.4	8.8	100.0	548
	大学・大学院中退	3.9	4.2	33.8	36.2	10.5	1.3	10.1	100.0	542
合計	3.8	2.4	53.2	18.0	9.0	1.7	11.9	100.0	20,099	

②2003年調査

単位：%、太字は実数

	会社など の役員・ 自営業主	自家営業 の手伝 い、内職	正規の職 員・従業 員	アルバイ ト・パート	派遣・契 約・嘱託	その他	不詳	合計(N)		
男性	中学卒	11.4	5.0	51.7	10.0	3.5	5.5	12.9	100.0	73
	高校卒	7.0	4.6	64.0	6.9	3.8	1.4	12.3	100.0	1,539
	専門・短大・高専卒	6.0	3.6	67.9	7.6	4.0	0.5	10.4	100.0	865
	大学・大学院卒	4.4	2.7	74.1	5.3	3.8	1.2	8.4	100.0	1,456
	高校中退	12.7	5.4	48.2	13.5	4.9	2.8	12.4	100.0	142
	専門・短大・高専中退	8.4	7.9	52.8	11.8	6.7	1.7	10.7	100.0	64
	大学・大学院中退	8.0	6.0	50.7	20.4	4.5	1.5	9.0	100.0	104
合計	6.5	4.0	66.1	7.4	4.0	1.4	10.7	100.0	4,292	
女性	中学卒	1.5	7.4	8.8	57.4	1.5	4.4	19.1	100.0	36
	高校卒	1.7	5.6	39.2	35.9	8.1	1.1	8.3	100.0	1,301
	専門・短大・高専卒	1.7	4.3	52.1	20.1	11.8	1.4	8.7	100.0	1,732
	大学・大学院卒	2.7	2.0	56.9	12.1	13.7	3.6	9.0	100.0	778
	高校中退	3.0	8.3	18.9	53.0	8.3	2.3	6.1	100.0	55
	専門・短大・高専中退	2.4	6.6	24.7	40.4	13.9	2.4	9.6	100.0	62
	大学・大学院中退	0.0	13.7	27.5	45.1	9.8	0.0	3.9	100.0	25
合計	1.9	4.5	47.1	25.3	10.9	1.7	8.7	100.0	4,035	
男女計	中学卒	8.9	5.6	40.9	21.9	3.0	5.2	14.5	100.0	269
	高校卒	4.8	5.0	53.8	18.9	5.6	1.3	10.7	100.0	5,614
	専門・短大・高専卒	3.2	4.0	57.7	15.7	9.0	1.1	9.3	100.0	4,990
	大学・大学院卒	3.8	2.4	67.9	7.7	7.4	2.1	8.6	100.0	3,757
	高校中退	10.2	6.2	40.7	23.6	5.8	2.7	10.8	100.0	518
	専門・短大・高専中退	5.5	7.3	39.2	25.6	10.2	2.0	10.2	100.0	344
	大学・大学院中退	6.3	7.5	46.0	25.4	5.6	1.2	7.9	100.0	252
合計	4.3	4.2	57.2	15.7	7.2	1.6	9.8	100.0	15,835	

③履歴データ

単位：%、太字は実数

	会社などの役員・自営業主	自家営業の手伝い、内職	正規の職員・従業員	アルバイト・パート	派遣、契約、嘱託	その他	不詳	合計(N)	
男性	中学卒	13.7	2.7	39.7	9.6	6.8	1.4	100.0	73
	高校卒	6.8	3.8	56.2	3.8	4.4	0.9	100.0	1,539
	専門・短大・高専卒	9.1	3.5	59.8	3.8	3.4	0.5	100.0	865
	大学・大学院卒	5.6	1.4	67.4	3.1	4.5	1.0	100.0	1,456
	高校中退	15.5	2.1	52.1	4.9	4.2	1.4	100.0	142
	専門・短大・高専中退	6.3	6.3	51.6	12.5	10.9	0.0	100.0	64
	大学・大学院中退	6.7	5.8	45.2	5.8	11.5	2.9	100.0	104
	合計	7.3	2.9	60.0	3.8	4.5	0.9	100.0	4,292
女性	中学卒	5.6	5.6	13.9	47.2	5.6	2.8	100.0	36
	高校卒	1.6	3.2	25.5	42.8	7.8	1.2	100.0	1,301
	専門・短大・高専卒	2.4	4.2	35.6	30.4	10.7	1.4	100.0	1,732
	大学・大学院卒	3.5	2.4	45.6	18.6	12.9	3.0	100.0	778
	高校中退	1.8	3.6	12.7	43.6	14.5	1.8	100.0	55
	専門・短大・高専中退	0.0	4.8	29.0	35.5	12.9	0.0	100.0	62
	大学・大学院中退	4.0	0.0	44.0	20.0	24.0	0.0	100.0	25
	合計	2.3	3.5	33.8	32.4	10.3	1.7	100.0	4,035
男女計	中学卒	11.0	3.7	31.2	22.0	6.4	1.8	100.0	109
	高校卒	4.4	3.6	42.1	21.7	6.0	1.1	100.0	2,840
	専門・短大・高専卒	4.6	3.9	43.6	21.5	8.3	1.1	100.0	2,597
	大学・大学院卒	4.9	1.7	59.8	8.5	7.4	1.7	100.0	2,234
	高校中退	11.7	2.5	41.1	15.7	7.1	1.5	100.0	197
	専門・短大・高専中退	3.2	5.6	40.5	23.8	11.9	0.0	100.0	126
	大学・大学院中退	6.2	4.7	45.0	8.5	14.0	2.3	100.0	129
	合計	4.9	3.2	47.3	17.7	7.3	1.3	100.0	8,327

付表6 年齢段階別現在の就業・無業状況（履歴データ）

① 男性

単位：％、太字は実数

	正社員	非正規	その他有業者	無業・求職者	無業・就業希望者	無業・非就業希望	合計		
30～34歳	高校卒	49.1	9.6	31.7	4.8	3.3	1.5	100.0	334
	専門・短大・高専卒	55.1	10.6	25.5	5.6	1.9	1.4	100.0	216
	大学・大学院卒	65.4	10.2	20.1	3.6	0.8	0.0	100.0	393
	高校中退	37.5	9.4	40.6	12.5	0.0	0.0	100.0	32
	高等教育中退	32.7	25.5	23.6	3.6	5.5	9.1	100.0	55
	計	54.7	10.8	26.0	4.6	2.3	1.6	100.0	1,069
35～39歳	高校卒	53.6	9.1	31.6	3.3	1.1	1.3	100.0	547
	専門・短大・高専卒	55.5	7.4	31.8	2.4	1.8	1.2	100.0	337
	大学・大学院卒	62.0	8.4	26.0	2.6	0.4	0.6	100.0	466
	高校中退	49.1	7.5	32.1	3.8	3.8	3.8	100.0	53
	高等教育中退	49.3	11.6	27.5	4.3	5.8	1.4	100.0	69
	計	55.6	8.8	29.8	3.1	1.5	1.2	100.0	1,510
40～44歳	高校卒	53.8	5.9	35.3	3.0	0.9	1.1	100.0	759
	専門・短大・高専卒	58.1	3.9	34.2	2.2	0.3	1.4	100.0	363
	大学・大学院卒	66.4	4.7	25.2	2.6	0.8	0.3	100.0	655
	高校中退	50.0	8.3	34.7	2.8	1.4	2.8	100.0	72
	高等教育中退	43.1	16.9	35.4	3.1	1.5	0.0	100.0	65
	計	57.8	5.6	31.7	2.9	0.9	1.1	100.0	1,987

② 女性

単位：％、太字は実数

	正社員	非正規	その他有業者	無業・求職者	無業・就業希望者	無業・非就業希望	合計		
30～34歳	高校卒	23.1	27.7	18.2	5.5	11.7	13.8	100.0	325
	専門・短大・高専卒	29.3	26.0	17.0	4.6	7.6	15.5	100.0	607
	大学・大学院卒	37.7	18.8	14.7	4.1	9.2	15.5	100.0	414
	高校中退	4.8	52.4	23.8	0.0	9.5	9.5	100.0	21
	高等教育中退	20.0	35.6	8.9	6.7	17.8	11.1	100.0	45
	計	29.8	25.1	16.4	4.6	9.3	14.8	100.0	1,442
35～39歳	高校卒	19.7	36.2	15.2	7.8	7.6	13.5	100.0	564
	専門・短大・高専卒	26.7	29.1	15.5	8.1	8.3	12.3	100.0	763
	大学・大学院卒	31.7	21.0	16.8	3.6	10.4	16.5	100.0	357
	高校中退	10.0	16.7	13.3	13.3	16.7	30.0	100.0	30
	高等教育中退	20.0	27.5	12.5	7.5	15.0	17.5	100.0	40
	計	24.8	29.5	15.8	7.1	8.7	14.1	100.0	1,786
40～44歳	高校卒	16.6	41.4	18.9	6.3	6.9	9.9	100.0	879
	専門・短大・高専卒	24.3	34.4	19.0	5.7	7.2	9.4	100.0	964
	大学・大学院卒	27.0	28.9	17.9	5.0	8.5	12.6	100.0	318
	高校中退	8.3	44.4	19.4	8.3	13.9	5.6	100.0	36
	高等教育中退	26.1	30.4	17.4	6.5	4.3	15.2	100.0	46
	計	21.4	36.2	18.8	6.1	7.4	10.1	100.0	2,298

注：図表1-26の注に示した扱いに加えて、年齢段階別においては「中学卒」は対象数のごくわずかになるので、掲載を省く。